

東京専門学校
法律科第三面部講義録

附

録

(改正刑法草案)
第三面部講義録



035520-000-7

ン-33

改正刑法草案

東京専門学校出版部

M34?

BBP-0062





改正刑法草案

東京專門學校出版部藏版



刑法草案目次

第一編	總則	一
第一章	法例	同丁
第二章	刑例	同丁
第一節	刑	同丁
第二節	期間計算	同丁
第三節	刑ノ執行ノ猶豫及ヒ免除	同丁
第四節	時效	同丁
第五節	大赦、特赦、減刑及ヒ復權	同丁
第三章	犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免	同丁
第四章	未遂罪	同丁
第五章	併合罪	同丁
第六章	再犯	同丁
第七章	共犯	同丁
刑法草案 目次		一

第八章 酌量減輕

第九章 加減例

第二編 罪

第一章 皇室ニ對スル罪

第二章 内亂ニ關スル罪

第三章 外患ニ關スル罪

第四章 國交ニ關スル罪

第五章 公權ニ關スル罪

第一節 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

第二節 囚人逃走ノ罪

第三節 罪人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪

第六章 靜謐ヲ害スル罪

第一節 多衆聚合ノ罪

第二節 放火及ヒ失火ノ罪

第三節 溢水及ヒ水利ニ關スル罪

二

一六丁

同 丁

一八丁

同 丁

一九丁

同 丁

二一丁

二二丁

同 丁

二三丁

二四丁

同 丁

同 丁

二五丁

二七丁

第四節 往來通信ヲ妨害スル罪

第五節 住居ヲ侵ス罪

第六節 祕密ヲ侵ス罪

第七章 衛生ニ關スル罪

第一節 阿片煙ニ關スル罪

第二節 飲料水ニ關スル罪

第八章 信用ヲ害スル罪

第一節 通貨偽造ノ罪

第二節 文書偽造ノ罪

第三節 有價證券偽造ノ罪

第四節 印章偽造ノ罪

第五節 偽證ノ罪

第六節 誣告ノ罪

第九章 風俗ヲ害スル罪

第一節 猥褻及ヒ重婚ノ罪

刑法草案 目次

三

二八丁

三〇丁

三一丁

同 丁

同 丁

三二丁

三三丁

同 丁

三四丁

三六丁

三七丁

三八丁

三九丁

同 丁

同 丁

第二節 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪	四一丁
第三節 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪	同丁
第十章 瀆職ノ罪	四二丁
第十一章 生命及ヒ身體ニ關スル罪	四四丁
第一節 殺人ノ罪	同丁
第二節 傷害ノ罪	四五丁
第三節 過失傷害ノ罪	四六丁
第四節 墮胎ノ罪	四七丁
第五節 老幼及ヒ疾病ノ保護ヲ缺ク罪	四八丁
第十二章 自由ニ對スル罪	同丁
第一節 逮捕及ヒ監禁ノ罪	同丁
第二節 脅迫ノ罪	四九丁
第三節 人ヲ拐取スル罪	同丁
第十三章 名譽ニ對スル罪	五一丁
第十四章 財産ニ對スル罪	同丁

第一節 賊盜ノ罪	同丁
第二節 占有物横領ノ罪	五四丁
第三節 贓物ニ關スル罪	同丁
第四節 財物毀棄ノ罪	五五丁

改正刑法目次終

刑法草案 目次

刑法

第一編 總則

第一章 法例

第一條 法律ニ於テ罰ス可キ行爲ヲ重罪及ヒ輕罪トス

第二條 犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用ス

第三條 法律ハ何人ヲ問ハス帝國内ニ於テ犯シタル罪ニ之ヲ適用ス帝國外ニ在ル帝國艦船内ノ犯罪ニ付キ亦同シ

第四條 法律ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ皇室又ハ帝國ニ對シテ犯シタル重罪ニ之ヲ適用ス

第五條 法律ハ帝國臣民帝國外ニ於テ生命、身體、自由、財産及ヒ信用ニ關シテ犯シタル重罪ニ之ヲ適用ス

外國人帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シテ犯シタル前項ノ罪ニ付キ亦同シ

第六條 法律ハ帝國ノ公務員帝國外ニ於テ犯シタル職務ニ關スル罪ニ之ヲ適用ス

第七條 外國ニ於テ確定裁判ヲ經タル事件ト雖モ更ニ處罰スルコトヲ妨ケス但犯人既ニ外

二
國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減免スルコトヲ得

第八條 本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ従事スル議員、委員其他ノ職員ヲ謂フ

公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ

第九條 本法ノ總則ハ他ノ法律ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適用ス但其法律ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス

第二章 刑例

第一節 刑

第十條 死刑、懲役、禁錮及ヒ罰金ヲ重罪ノ主刑トス

拘留及ヒ科料ヲ輕罪ノ主刑トス

公權剝奪、監視及ヒ沒收ヲ附加刑トス

第十一條 主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但有期徒刑懲役ノ長期有期徒刑懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス

同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトス

二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ム

第十二條 死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其執行ニ至ルマテ之ヲ監獄ニ拘留ス

第十三條 懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期懲役ハ一日以上十五年以下トス

懲役ハ懲役場ニ拘留シ定役ニ服ス

第十四條 禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮ハ一日以上十五年以下トス

禁錮ハ禁錮場ニ拘留ス

第十五條 罰金ハ一圓以上トス

第十六條 罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス
罰金ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金不完納ノ場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ

裁判確定後一月内ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

罰金ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納メタルトキハ罰金ノ全額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ

其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス

留置期間内罰金ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ

第十七條 拘留ハ一日以上一月以下トシ拘留場ニ拘留ス

第十八條 科料ハ十錢以上三十圓以下トス

第十九條 科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一月以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ二月ヲ超ユルコトヲ得ス

一圓以上ノ科料ニ處セラレタル者ニ對シテハ裁判確定後一月内ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條第二項、第四項及ヒ第五項ノ規定ハ科料ニ之ヲ準用ス

第二十條 公權剝奪ハ左ノ效果ヲ生ス

- 一 法律ニ定メタル選舉ニ付キ選舉權及ヒ被選舉權ノ喪失
- 二 公務員タル資格ノ喪失
- 三 位記、勳章、年金及ヒ恩給ヲ有スル資格ノ喪失
- 四 外國ノ勳章ヲ佩用スルコトノ禁止
- 五 兵籍ニ入ル資格ノ喪失

第二十一條 公權剝奪ハ無期又ハ有期トシ有期公權剝奪ハ一年以上十五年以下トス

死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ニ附加ス可キ公權剝奪ハ當然無期トス

十年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ附加ス可キ公權剝奪ハ無期又ハ有期トシ十年未満ノ懲役又ハ禁錮ニ附加ス可キ公權剝奪ハ十年以下トス

有期ノ懲役又ハ禁錮ニ有期公權剝奪ヲ附加セラレタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ其懲役又ハ禁錮ノ滿限若クハ其執行ノ免除ニ至ルマテ當然公權ヲ剝奪セラレタルモノトス

第二十二條 監視ハ左ノ效果ヲ生ス

- 一 犯罪ノ地及ヒ被害者所在地ノ警察官廳ハ被監視人ニ對シ其管轄地ノ全部又ハ一部ニ住居シ又ハ立入ルヲ禁スルコトヲ得
- 二 必要ナル場合ニ於テハ警察官ハ何時ニテモ被監視人ノ住居ニ就キ搜索及ヒ物件差押ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 監視ノ期間ハ六月以上二年以下トス

第二十四條 有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處スル場合ニ於テ監視ヲ附加スルコトヲ得ヘキ罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者特赦又ハ時効ニ因リ其執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ有期ノ懲役若クハ禁錮ニ減輕セラレタルトキハ當然二年間監視ニ付セラレタルモノトス

併合罪ニ付キ死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者特赦又ハ時効ニ因リ其執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ有期ノ懲役若クハ禁錮ニ減輕セラレタル場合ニ於テ其併合罪中監視ヲ附加スルコトヲ得ヘキ罪アルトキ亦同シ

第二十五條 法律ニ於テ所有ヲ禁シタル物件ハ之ヲ沒收ス

左ニ記載シタル物件ハ之ヲ沒收スルコトヲ得

- 一 犯罪行為ニ供シ又ハ供セントシタル物件
- 二 犯罪行為ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物件

物件ノ沒收ハ其物件犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ル

第二十六條 輕罪ノ刑ニ付テハ別段ノ規定アルニ非サレハ沒收ヲ附加スルコトヲ得ス但前條第一項ニ記載シタル物件ハ此限ニ在ラス

第二節 期間計算

第二十七條 期間ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

第二十八條 刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス

拘禁セラレザル日數ハ裁判確定後ト雖モ懲役、禁錮又ハ拘留ノ刑期ニ算入セス

有期ノ懲役、又ハ禁錮ニ附加セラレタル有期公權剝奪及ヒ監視ノ期間ハ其懲役又ハ禁錮ノ滿限若クハ其執行免除ノ翌日ヨリ起算ス

死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ノ執行免除ヲ得タル者ノ監視ノ期間ハ其免除ノ翌日ヨリ起算シ減刑ニ因リ死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ヲ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ減輕セラレタル者ノ監視ノ期間ニ付テハ前項ノ例ニ依ル

第二十九條 受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計算ス時効期間ノ初日亦同シ
放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ

第三十條 未決拘留ノ日數ハ左ノ區別ニ從ヒ本刑ニ算入ス但本刑ノ一日又ハ一圓ニ當ラサル日數ハ之ヲ除去ス

- 一 懲役一日ニ付キ拘留六日
- 二 禁錮、拘留一日ニ付キ拘留三日
- 三 罰金、科料一圓ニ付キ拘留二日但一圓以下ト雖モ亦同シ

第三節 刑ノ執行ノ猶豫及ヒ免除

第三十一條 左ニ記載シタル者一年以下ノ禁錮又ハ六月以下ノ懲役ノ言渡ヲ受タルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ二年以上五年以下ノ期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

一 前ニ罰金以外ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
二 前ニ罰金以外ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免
除ヲ得タル日ヨリ十年以上罰金以外ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

第三十二條 公權剝奪又ハ監視ヲ附加セラレタル者ニハ前條ノ規定ヲ適用セス

第三十三條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可シ但第三十一條
第二號ニ記載シタル者ニ付テハ此限ニ在ラス

- 一 猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ罰金以外ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以外ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 三 猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ罰金以外ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルト
キ

第三十四條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルルコト無クシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキ
ハ刑ノ言渡ハ當然其效力ヲ失フ

第三十五條 禁錮又ハ懲役ニ處セラレタル者更ニ重罪ヲ犯ス虞ナキトキハ有期刑ニ付テハ
其刑期三分ノ一無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタル後行政處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコト
ヲ得

第三十六條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取消スコトヲ得

- 一 假出獄中更ニ罪ヲ犯シ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 二 假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 三 假出獄前他ノ罪ニ付キ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲ス可キト
キ
- 四 假出獄取締規則ニ違背シタルトキ

假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セス

第三十七條 拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政處分ヲ以テ其執行ヲ免除
スルコトヲ得

罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因リ留置セラレタル者亦同シ

第四節 時效
第三十八條 死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留、科料及ヒ沒收ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時效ニ
因リ執行ノ免除ヲ得

第三十九條 時效ハ刑ノ言渡確定シタル後左ノ期間内其執行ヲ受ケサルニ因リ完成ス
一 死刑ハ三十年

二 無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年

三 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年、三年以上ハ十年、三年未満ハ五年

四 罰金ハ三年

五 拘留、科料及ヒ沒收ハ一年

第四十條 時効ノ期間ハ法律ニ依リ刑ノ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止シタル期間内ハ經過スルコトナシ

第四十一條 時効ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中斷ス

罰金、科料及ヒ沒收ノ時効ハ執行行為ヲ爲シタルニ因リ之ヲ中斷ス

第五節 大赦、特赦、減刑及ヒ復権

第四十二條 大赦ハ裁判言渡ノ效力ヲ全減ス

第四十三條 特赦ハ刑ノ執行ヲ免除シ減刑ハ刑ノ執行ヲ減輕ス

第四十四條 復権ハ將來ノ公權ヲ復シ當然監視ヲ免除ス

第三章 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

第四十五條 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行為ハ之ヲ罰セズ

第四十六條 急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得サル

ニ出テタル行為ハ之ヲ罰セズ

若シ必要ノ程度ヲ超エタルトキハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第四十七條 自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財産ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行為ハ其行為ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エサル場合ニ限り之ヲ罰セズ但其程度ヲ超エタルトキト雖モ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

前項ノ規定ハ業務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セズ

第四十八條 罪ヲ犯ス意ナキ行為ハ之ヲ罰セズ但法律ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラズ

法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第四十九條 精神障礙ニ因ル行為ハ之ヲ罰セズ但情狀ニ因リ監置ノ處分ヲ命スルコトヲ得精神耗弱者ノ行為ハ其刑ヲ減輕ス

第五十條 瘡痍者ノ行為ハ之ヲ罰セズ又ハ其刑ヲ減輕ス但之ヲ罰セサル場合ニ於テハ情狀ニ因リ十年以下ノ期間懲治ノ處分ヲ命スルコトヲ得

第五十一條 十四歳ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス但滿八歳以上ノ行爲ニシテ重罪ニ該ルトキハ情狀ニ因リ十年以下ノ期間懲治ノ處分ヲ命スルコトヲ得

第五十二條 十四歳以上二十歳ニ滿タサル者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第五十三條 監置又ハ懲治ノ處分ヲ受ケタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政處分ヲ以テ其執行ヲ免除スルコトヲ得

第五十四條 罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得
告訴ヲ待テ論ス可キ罪ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル者亦同シ

第四章 未遂罪

第五十五條 犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

第五十六條 未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

第五章 併合罪

第五十七條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止テ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

第五十八條 併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ他ノ刑ヲ科セス但公權剝奪及ヒ

沒收ハ此限ニ在ラス

其一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキ亦他ノ刑ヲ科セス但罰金、科料、公權剝奪及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス

第五十九條 併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮アルトキハ最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス

第六十條 罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第五十八條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス

第六十一條 併合罪中重キ罪ニ附加刑ヲシト雖モ他ノ罪ニ附加刑アルトキハ之ヲ附加ス但

第五十八條ノ適用ヲ妨ケス

二個以上ノ公權剝奪アルトキハ其期限ノ最モ長キモノヲ附加シ二個以上ノ監視アルトキハ單ニ其一個ヲ附加ス

二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス

第六十二條 併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷ス

第六十三條 併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタルトキハ其刑ヲ併セテ之ヲ執行ス但死刑ヲ執行ス可キトキハ公權剝奪及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキハ罰金、科料、公權剝奪及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得ス

公權剝奪及ヒ監視ハ其期限ノ最モ長キモノヲ執行ス

第六十四條 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ニ於テハ特大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム

第六十五條 輕罪ノ刑ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第五十八條ノ場合ハ此限ニ在ラス二個以上ノ輕罪ノ刑ハ之ヲ併科ス

第六十六條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

第六十一條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第六十七條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

第六章 再犯

第六十八條 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ十年内ニ更ニ有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキハ之ヲ再犯トス

懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免除アリタル日ヨリ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間内ニ更ニ有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキ亦同シ

併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ該ル罪アリタルトキハ其罪最重ノモノニ非スト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタル者ト看做ス

第六十九條 再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ法律ニ定メタル懲役ノ長期ノ二倍トス

第七十條 裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ム

懲役ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除アリタル者ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セス

第七十一條 三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同シ

第七章 共犯

七十二條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス

第七十三條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス

教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ

第七十四條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス

第七十五條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

第七十六條 輕罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ別段ノ規定アルニ非サレハ之ヲ罰セス

第七十七條 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ罪ヲ共ニ犯シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍

ホ共犯トス

身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

第八章 酌量減輕

第七十八條 犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第七十九條 法律ニ於テ刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キモノト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ

得

第九章 加減例

第八十條 法律上刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ原由アルトキハ左ノ例ニ從テ之ヲ減輕ス

一 死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ五年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處ス

二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ三年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 有期ノ懲役又ハ禁錮若クハ拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ三分ノ二以下ニ處ス

但各本條ニ於テ特ニ短期ヲ定メタル場合ニ於テハ其三分ノ二ヲ減シタルモノヲ以テ

短期トス

四 罰金、科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ三分ノ二以下ニ處ス

第八十一條 法律上刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先ツ適

用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

第八十二條 酌量減輕ヲ爲ス可キトキハ左ノ例ニ依ル

一 死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ三年以上ノ有期懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 有期ノ懲役又ハ禁錮ニ短期アルモノヲ減輕ス可キトキハ其短期以下ニ處ス

第八十三條 附加刑ハ加重減輕セス

第八十四條 同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依ル

一 再犯加重

二 法律上ノ減輕

三 併合罪ノ加重
四 酌量減輕

第八十五條 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ加重シテ二十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二編 罪

第一章 皇室ニ對スル罪

第八十六條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太孫ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

第八十七條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太孫ニ對シ不敬ノ行爲アル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

皇陵ニ對シ不敬ノ行爲アル者亦同シ

第八十八條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期懲役ニ處ス

第八十九條 皇族ニ對シ不敬ノ行爲アル者ハ四年以下ノ懲役ニ處ス

第九十條 本章ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得
本章ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

第二章 内亂ニ關スル罪

第九十一條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ内亂ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス

二 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ禁錮ニ處シ其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ十年以下ノ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シタル者ハ五年以下ノ禁錮ニ處ス
本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但前項第三號ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス

第九十二條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ禁錮ニ處ス

第九十三條 兵器、金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幫助シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス

第九十四條 本章ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

第九十五條 第九十二條又ハ第九十三條ノ罪ヲ犯スト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

第三章 外患ニ關スル罪

刑法 第二編 第三章 外患ニ關スル罪

第九十六條 外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス

第九十七條 要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第九十八條 敵國ヲ利スル爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車、電車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物件ヲ毀壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第九十九條 帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第一百條 敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ七年以上ノ懲役ニ處ス

軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ

第一百一條 前數條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

第一百二條 第九十六條乃至第一百一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一百三條 第九十六條乃至第一百一條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第一百四條 本章ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

第一百五條 本章ノ規定ハ外國人ニ對シテハ帝國又ハ帝國ノ艦船若クハ占領地ニ在テ犯シタル場合ニ限り之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ戰時慣例ニ因リ處分スルコトヲ妨ケス

第一百六條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第一百七條 帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行ヲ加ヘタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第一百八條 帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

處ス

帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九條 外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其他ノ國章ヲ破毀汚損又ハ除去シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第十條 外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ禁錮ニ處ス但自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

第十一條 外國交戦ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違背シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五章 公權ニ對スル罪

第一節 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

第十二條 公務員ノ職務ノ執行ヲ妨害スル爲メ又ハ公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ四年以下ノ懲役ニ處ス

公務員ヲシテ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者亦同シ

第十三條 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ其面前ニ於テ侮辱ヲ爲シ又ハ其面前ニ非スト

雖モ其職務ニ對シ文書、圖書又ハ偶像ヲ公示シ若クハ公然ノ雜劇、歌曲又ハ演說ヲ以テ侮辱シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務所ニ對シ文書、圖書又ハ偶像ヲ公示シ若クハ公然ノ雜劇、歌曲又ハ演說ヲ以テ侮辱シタル者亦同シ

第十四條 官吏、公吏ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ破毀シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効タラシメタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二節 囚人逃走ノ罪

第十五條 既決、未決ノ囚人逃走シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第十六條 囚人獄舎又ハ械具ヲ毀壞シ若クハ暴行、脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第十七條 囚人ヲ奪取シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第十八條 囚人ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第一百十九條 囚人ヲ看守シ又ハ護送スル者囚人ヲ逃走セシメタルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第一百二十條 本節ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三節 罪人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪

第一百二十一條 逃走ノ囚人又ハ重罪ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ犯シタル者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百二十二條 他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ偽造、變造シ若クハ偽造、變造ノ證憑ヲ使用シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百二十三條 本節ノ罪ハ被告人ノ親族ニシテ被告人ノ利益ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罰セス

第六章 靜謐ヲ害スル罪

第一節 多衆聚合ノ罪

第一百二十四條 何等ノ目的ヲ問ハス之ヲ違スル爲メ多衆聚合シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

三 附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百二十五條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ目的ヲ達スル爲メ多衆聚合シ官吏又ハ公吏ノ説諭ヲ受クルト雖モ解散セサルトキハ首魁ハ三年以下ノ懲役ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百二十六條 本節ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

第二節 放火及ヒ失火ノ罪

第一百二十七條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、船舶又ハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ七年以上ノ懲役ニ處ス

第一百二十八條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、船舶又ハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第一百二十九條 火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ放火ノ爲メ公共ノ危險ヲ生シタルトキニ限り一年以下

ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十條 第二百二十八條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第二百二十七條及ヒ第二百二十八條第一項ニ記載シタル物ニ延焼シタルトキハ七年以下ノ懲役ニ處ス若シ前條第一項ニ記載シタル物ニ延焼シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第三百十一條 第二百二十七條、第二百二十八條及ヒ第二百二十九條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第三百十二條 第二百二十七條及ヒ第二百二十八條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其準備ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ本刑ヲ免除シテ監視ニ付スルコトヲ得

第三百十三條 第二百二十八條及ヒ第二百二十九條ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルト雖モ差押ヲ受ケ物權ヲ設定シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シ

第三百十四條 火災ノ際鎮火用ノ物件ヲ隱匿又ハ毀壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第三百十五條 第二百二十七條乃至第三百十四條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

第二百二十七條乃至第三百十四條ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

トヲ得

第三百十六條 火ヲ失シテ第二百二十七條乃至第二百二十九條及ヒ第三百十三條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十七條 火藥、汽罐其他激發ス可キ物品ヲ破裂セシメテ第二百二十七條乃至第二百二十九條及ヒ第三百十三條ニ記載シタル物ヲ毀壞シタル者ハ放火、失火ノ例ニ同シ

第三百十八條 瓦斯、電氣又ハ蒸氣ヲ漏出セシメ人ノ生命、身體又ハ財産ニ危險ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三節 溢水及ヒ水利ニ關スル罪

第三百十九條 溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車又ハ鐵坑ヲ浸害シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタルトキハ死刑ニ處スルコトヲ得

第四百十條 溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ、物權ヲ設定シ又ハ賃貸シ若クハ保險

ニ付シタル場合ニ限リ前項ノ例ニ依ル

第四百十一條 水害ノ際防水用ノ物件ヲ隠匿又ハ毀壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第四百十二條 第三百三十九條乃至第四百十一條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

第三百三十九條乃至第四百十一條ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

第四百十三條 過失ニ因リ溢水セシメテ第三百三十九條及ヒ第四百十條ニ記載シタル物ヲ浸害シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十四條 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ破壞シ其他水利ノ妨害トナル可キ行爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四節 往來通信ヲ妨害スル罪

第四百十五條 陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十六條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ

處斷ス

第四百十七條 鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ汽車又ハ電車ノ往來ノ危険ヲ生セシメタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ船舶ノ往來ノ危険ヲ生セシメタル者亦同シ

第四百十八條 人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顛覆又ハ破壞シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

人ノ現在スル船舶ヲ覆没又ハ破壞シタル者亦同シ

前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第四百十九條 第四百十七條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車又ハ電車ノ顛覆若クハ破壞又ハ船舶ノ覆没若クハ破壞ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ

第四百十條 第四百十五條、第四百十七條及ヒ第四百十八條第一項、第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四百十一條 第四百十七條及ヒ第四百十八條第一項、第二項ニ掲ケタル行爲過失ニ出タルトキハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

其業務ニ従事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十二條 郵便、電信又ハ電話ノ用ニ供スル物件ヲ毀損シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ郵便、電信又ハ電話ノ交通ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五節 住居ヲ侵ス罪

第五十三條 故ナシ人ノ住居又ハ人ノ看守シタル邸宅、建造物若クハ船舶ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス若シ左ニ記載シタル情狀アルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

一 夜間ナルトキ

二 門戸、牆壁其他ノ外圍ヲ踰越、損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キタルトキ

三 兇器ヲ携帯シタルトキ

四 暴行、脅迫ヲ爲シ又ハ偽計ヲ用ヒタルトキ

五 二人以上ナルトキ

第五十四條 故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

ス

皇陵ニ侵入シタル者亦同シ

第五十五條 本節ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第五十六條 本節ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

第六節 祕密ヲ侵ス罪

第五十七條 故ナシ封緘シタル信書ヲ開披、隱匿又ハ毀棄シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十八條 醫師、藥劑師、産婆、辯護士、辯護人、公證人、神職又ハ宗教ノ職ニ在ル者其職務ニ關シ委託ヲ受ケタルコトニ因リ知得タル人ノ祕密ヲ漏告シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス但證人トシテ事實ヲ陳述スル者ハ此限ニ在ラス

第七章 衛生ニ關スル罪

第一節 阿片煙ニ關スル罪

第六十條 阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣スル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第六十一條 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣スル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百六十二條 税關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ノ輸入ヲ許シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第百六十三條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百六十四條 阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所有又ハ所持シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第百六十五條 本節ノ罪ヲ犯シタル者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

第二節 飲料水ニ關スル罪

第百六十六條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十七條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第百六十八條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百六十九條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害

ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ七年以上ノ懲役ニ處ス

第百七十條 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第百七十一條 第百六十六條乃至第百六十八條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第八章 信用ヲ害スル罪

第一節 通貨偽造ノ罪

第百七十二條 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ兌換券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ兌換券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

第百七十三條 偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ兌換券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ輸入シタル者ハ前條ノ例ニ同シ

第百七十四條 偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ兌換券ヲ行使スル目的ヲ以テ之ヲ收得シタル

者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第三百七十五條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三百七十六條 貨幣、紙幣又ハ兌換券ヲ收得シタル後其偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シタル者ハ其價額三倍以下ノ罰金ニ處ス但一圓以下ニ下スコトヲ得ス

第三百七十七條 貨幣、紙幣又ハ兌換券ノ偽造、變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第三百七十八條 本節ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

第三百七十九條 本節ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

本節ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

第二節 文書偽造ノ罪

第二百七十九條

行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ不正ニ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署名シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シタル者亦同シ

第二百八十條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名

名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書ヲ偽造シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印、署名シタル文書ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書ヲ偽造シ若クハ公務所又ハ公務員ノ作りタル文書ヲ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百八十一條 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ詐僞ノ文書ヲ作り又ハ不正ニ文書ヲ變造シタル者ハ印章署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

第二百八十二條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書ヲ偽造シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書ヲ變造シタル者亦同シ

第二百八十三條 公務員ニ對シ詐僞ノ申立ヲ爲シ戸籍簿、登記簿其他權利、義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

刑法 第二編 第八章 信用ヲ害スル罪

三十五

公務員ニ對シ詐偽ノ申立ヲ爲シ免狀又ハ鑑札ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百八十四條 醫師官署又ハ公署ニ提出ス可キ診斷書若クハ死亡證書ニ詐偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十五條 第七十條乃至第百八十四條ニ記載シタル文書ヲ行使シタル者ハ其文書ヲ作り又ハ變造シタル者若クハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス

本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百八十六條 本節ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得
本節ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

第三節 有價證券偽造ノ罪

第百八十七條 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、會社ノ株券其他ノ有價證券又ハ其裏書ヲ偽造若クハ變造シ又ハ詐偽ノ裏書ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第百八十八條 偽造、變造又ハ詐偽ノ裏書ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ輸入シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百八十九條 本節ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪及ヒ監視ヲ附加スルコトヲ得

第四節 印章偽造ノ罪

第百九十條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ

第百九十一條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

第百九十二條 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル者亦同シ

第百九十三條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章、署名ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章、署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章、署名ヲ使用シタル者亦同シ

第九十四條 行使ノ目的ヲ以テ政府ヨリ發行スル印紙、郵便切手、封皮、葉書、帶紙又

ハ郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手、封皮、葉書、帶紙ヲ偽造又ハ變造シタル者

ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

偽造、變造ノ印紙、郵便切手、封皮、葉書、帶紙ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ輸

入シタル者亦同シ

第九十五條 第九十條第二項、第九十一條第二項、第九十二條第二項、第九十

三條第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第九十六條 本節ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪及ヒ監視ヲ附加スルコトヲ得

第五節 偽證ノ罪

第九十七條 法律ニ依リ宣誓シテ證人トナリタル者虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ十年以

下ノ懲役ニ處ス

第九十八條 前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シ

タルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第九十九條 法律ニ依リ宣誓シテ鑑定人又ハ通事トナリタル者虛偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲

シタルトキハ前二條ノ例ニ依ル

第一百條 本節ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

第六節 誣告ノ罪

第一百一條 人ヲシテ刑事事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ不實ノ申告ヲ爲シタル

者ハ第九十七條及ヒ第二百條ノ例ニ依ル

第一百二條 前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタ

ルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

九章 風俗ヲ害スル罪

第一節 猥褻及ヒ重婚ノ罪

第一百三條 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

第一百四條 猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物品ヲ頒布シ又ハ公然陳列若シハ販賣スル者ハ科料

ニ處ス

本條ノ罪ニハ沒收例ヲ適用ス

第一百五條 十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ其精神障

礙若シハ抗拒不能ニ乘シテ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

十二歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

第二百六條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ十二歳以上ノ婦女ヲ姦淫シ又ハ其精神障礙若クハ抗拒不能ニ乘シテ姦淫シタル者ハ強姦ノ罪ト爲シ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

十二歳ニ滿タサル幼女ヲ姦淫シタル者亦同シ

第二百七條 第二百五條及ヒ第二百六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百八條 第二百五條及ヒ第二百六條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二百九條 第二百五條及ヒ第二百六條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第二百十條 營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十一條 有夫ノ婦姦通シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス有夫ノ婦ニ姦シタル者亦同シ

本條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ效ナシ

第二百十二條 配偶者アル者重テ婚姻ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十三條 第二百五條、第二百六條及第二百九條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附

加スルコトヲ得

第二百十條ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ公權剝奪及ヒ監視ヲ附加スルコトヲ得

第二節 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

第二百十四條 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物品ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス

第二百十五條 常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

博戲場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十六條 允許ヲ得スシテ富籤ヲ發賣シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十七條 允許ヲ得スシテ發賣シタル富籤ヲ買取シタル者ハ科料ニ處ス

第二百十八條 本節ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

第三節 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

第二百十九條 神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

説教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十條 墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十一條 死體、遺骨又ハ棺内ニ藏置シタル物件ヲ毀損、遺棄若クハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十二條 第二百二十條ノ罪ヲ犯シ因テ死體、遺骨又ハ棺内ニ藏置シタル物件ヲ毀損、遺棄若クハ領得シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十三條 允許ヲ得スシテ改葬ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

檢視ヲ經スシテ變死ノ屍ヲ葬リタル者亦同シ

第十章 瀆職ノ罪

第二百二十四條 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利

ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ禁錮ニ處ス

第二百二十五條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ若クハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百二十六條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ若クハ之ヲ補助スル者又ハ囚人、監置人、留置人、懲治人ノ看守若クハ護送ノ職ニ在ル者刑事被告人、囚人、監置人、留置人又ハ

懲治人ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百二十七條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ

從テ處斷ス

第二百二十八條 水火、風震其他非常ノ事變ニ際シ刑事被告人、囚人、監置人、留置人、

懲治人ノ看守若クハ護送ノ職ニ在ル者避難ノ爲メ必要ノ處分ヲ爲サス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ照シテ處斷ス

第二百二十九條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徴ス

第二百三十條 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ贈與、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ罪ヲ犯シタル者事未タ發覺セサル前自首シタルトキハ其刑ヲ免除ス裁判確定前自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二百三十一條 公務員又ハ仲裁人情ニ徇ヒ又ハ怨ヲ挾サミ其職務ニ關シ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百三十二條 公務員又ハ仲裁人自己ニ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ利益ヲ得セシムル爲メ其職務ニ關スル祕事ヲ漏泄シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十三條 第二百二十九條乃至第二百三十二條ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

第十一章 生命及ヒ身體ニ對スル罪

第一節 殺人ノ罪

第二百三十四條 人ヲ殺シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第二百三十五條 人ヲ殺シタル者左ニ記載シタル情狀アルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

- 一 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキ
- 二 豫メ謀テ犯シタルトキ
- 三 二人以上ヲ殺シタルトキ
- 四 支解、折割其他慘刻ノ行爲ヲ以テ犯シタルトキ
- 五 重罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ既ニ犯シテ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ

犯シタルトキ

第二百三十六條 前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百三十七條 謀殺ノ目的ヲ以テ其準備ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ本刑ヲ免除シテ監視ニ付スルコトヲ得

第二百三十八條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百三十九條 本節ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得
本節ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

第二節 傷害ノ罪

第二百四十條 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮若クハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

婦女ノ頭髮ヲ切斷又ハ毀損シタル者亦同シ

第二百四十一條 身體傷害ニ因リ左ノ結果ヲ生セシメタルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス

- 一 一目又ハ兩目ノ視能ノ喪失
- 二 一耳又ハ兩耳ノ聽能ノ喪失

- 三 語能ノ喪失
- 四 一肢以上ノ使用ノ不能
- 五 陰陽ノ不能
- 六 重大ニシテ不治ナル精神、身體ノ疾病又ハ外觀ノ不具
- 七 流産

第二百四十二條 身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第二百四十三條 前三條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ラ人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十四條 二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ其傷害ヲ生セシメタル者又ハ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル

第二百四十五條 暴行ヲ加フト雖モ人ヲ傷害スルニ至ラサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

本條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三節 過失傷害ノ罪

第二百四十六條 過失ニ因テ人ヲ傷害シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二百四十七條 過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十八條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以上ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四節 墮胎ノ罪

第二百四十九條 懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

懲役ニ處ス

第二百五十條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十一條 醫師、産婆又ハ藥劑師婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十二條 婦女ヲシテ墮胎セシメタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百五十三條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第五節 老幼及ヒ疾病ノ保護ヲ缺ク罪

第二百五十四條 老幼又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十五條 老者、幼者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲ササル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十六條 前二條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百五十七條 扶助ヲ要ス可キ老者、幼者又ハ病者ヲ現場ニ發見シタル者故ナク之ヲ扶助セス又ハ當該ノ職員ニ申告セサル者ハ科料ニ處ス

第十二章 自由ニ對スル罪

第一節 逮捕及ヒ監禁ノ罪

第二百五十八條 不正ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十九條 前條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從

テ處斷ス

第二節 脅迫ノ罪

第二百六十條 人ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シテ害ヲ加ヘント脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シテ害ヲ加ヘント脅迫シタル者亦同シ

第二百六十一條 暴行ヲ用ヒ又ハ生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シテ害ヲ加ヘント脅迫シ人ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シテ害ヲ加ヘント脅迫シ人ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ

本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百六十二條 本節ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三節 人ヲ拐取スル罪

第二百六十三條 父母又ハ其他ノ監督者ノ承諾ナクシテ未成年者ヲ拐取シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

偽計又ハ威力ヲ用ヒ父母又ハ其他ノ監督者ノ承諾ヲ得テ拐取シタル者亦同シ

前二項ノ行爲營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ニ出タルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百六十四條 營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ偽計又ハ威力ヲ用ヒ人ヲ拐取シタル者

ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百六十五條 猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ拐取シタル罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但拐

取セラレタル者婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ無效又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告

訴ノ效ナシ

第二百六十六條 營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者ヲ收受シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ

處ス

拐取者ヲ幫助スル目的ヲ以テ被拐取者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ五年以下ノ懲役

ニ處ス

第二百六十七條 國外ニ移送スル目的ヲ以テ第二百六十三條第一項、第二項ノ罪ヲ犯シ又

ハ偽計若クハ威力ヲ用ヒ人ヲ拐取シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ國外ニ移送シタル者

亦同シ

第二百六十八條 本節ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百六十九條 本節ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

第十三章 名譽ニ對スル罪

第二百七十條 惡事醜行アリトシテ公然之ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ事實ノ有無

ヲ問ハス六月以下ノ懲役又ハ禁錮若クハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ルニ非サレハ之ヲ罰セス

第二百七十一條 惡事醜行ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二百七十二條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第十四章 財産ニ對スル罪

第一節 賊盜ノ罪

第二百七十三條 人ノ動産ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百七十四條 暴行ヲ用ヒ又ハ現ニ被害者又ハ被害者ニ於テ救護ス可キ者ノ生命、身

體、自由若クハ財産ニ對シ危害ヲ加ヘント脅迫シテ動産ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲

シ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ不法ニ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百七十五條 強盜ノ目的ヲ以テ其準備ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ本刑ヲ免除シテ監視ニ付スルコトヲ得

第二百七十六條 竊盜財ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ臨時暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

第二百七十七條 人ヲ昏醉セシメテ其動産ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

第二百七十八條 強盜人ヲ傷シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百七十九條 強盜婦女ヲ強姦シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタル者ハ前條ノ例ニ依ル

第二百八十條 第二百七十四條ニ記載シタル以外ノ脅迫ヲ以テ人ノ動産ヲ奪取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ不法ニ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百八十一條 人ヲ欺罔シテ動産ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ方法ヲ以テ不法ニ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百八十二條 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者本人ニ損害ヲ加ヘ又ハ自己若クハ第三者ニ處ス

ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ權限外ノ行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百八十三條 未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神耗弱ニ乘シテ其動産ヲ交付セシメ又ハ不法ニ財産上ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス
第二百八十四條 第二百七十三條、第二百七十四條、第二百七十七條及ヒ第二百八十條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ第二百五十三條及ヒ第二百五十四條ノ罪ヲ犯シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百八十五條 直系血族及ヒ同居ノ親族ノ間ニ於テ第二百七十三條及ヒ第二百八十條乃至第二百八十四條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

親族ニ非サル共犯者ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス
第二百八十六條 自己ノ動産ト雖モ質權又ハ留置權ニ因リ他人ノ占有ニ屬シ又ハ官署若クハ公署ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ他人ノ財物ヲ以テ論ス

第二百八十七條 本節ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但第二百七十五條ノ罪ハ此限ニ在ラス
第二百八十八條 本節ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

本節ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

五十四

第二節 占有物横領ノ罪

第二百八十九條 他人ノ爲メ占有スル動産又ハ不動産ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己ノ動産ト雖モ官署又ハ公署ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ

第二百九十條 業務上他人ノ爲メ占有スル動産又ハ不動産ヲ横領シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪及ヒ監視ヲ附加スルコトヲ得

第二百九十一條 遺失物、漂流物其他人ノ占有ヲ離レタル動産ヲ得テ之ヲ横領シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第二百九十二條 本節ノ罪ニハ第二百八十五條ノ規定ヲ準用ス

第三節 贓物ニ關スル罪

第二百九十三條 贓物ヲ收受シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

贓物ノ寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百九十四條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪及ヒ監視ヲ附加スルコトヲ得

第二百九十五條 直系血族、同居ノ親族及ヒ此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ第二百九十三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス

第四節 財物毀棄ノ罪

第二百九十六條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百九十七條 權利、義務ニ關スル人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス但告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

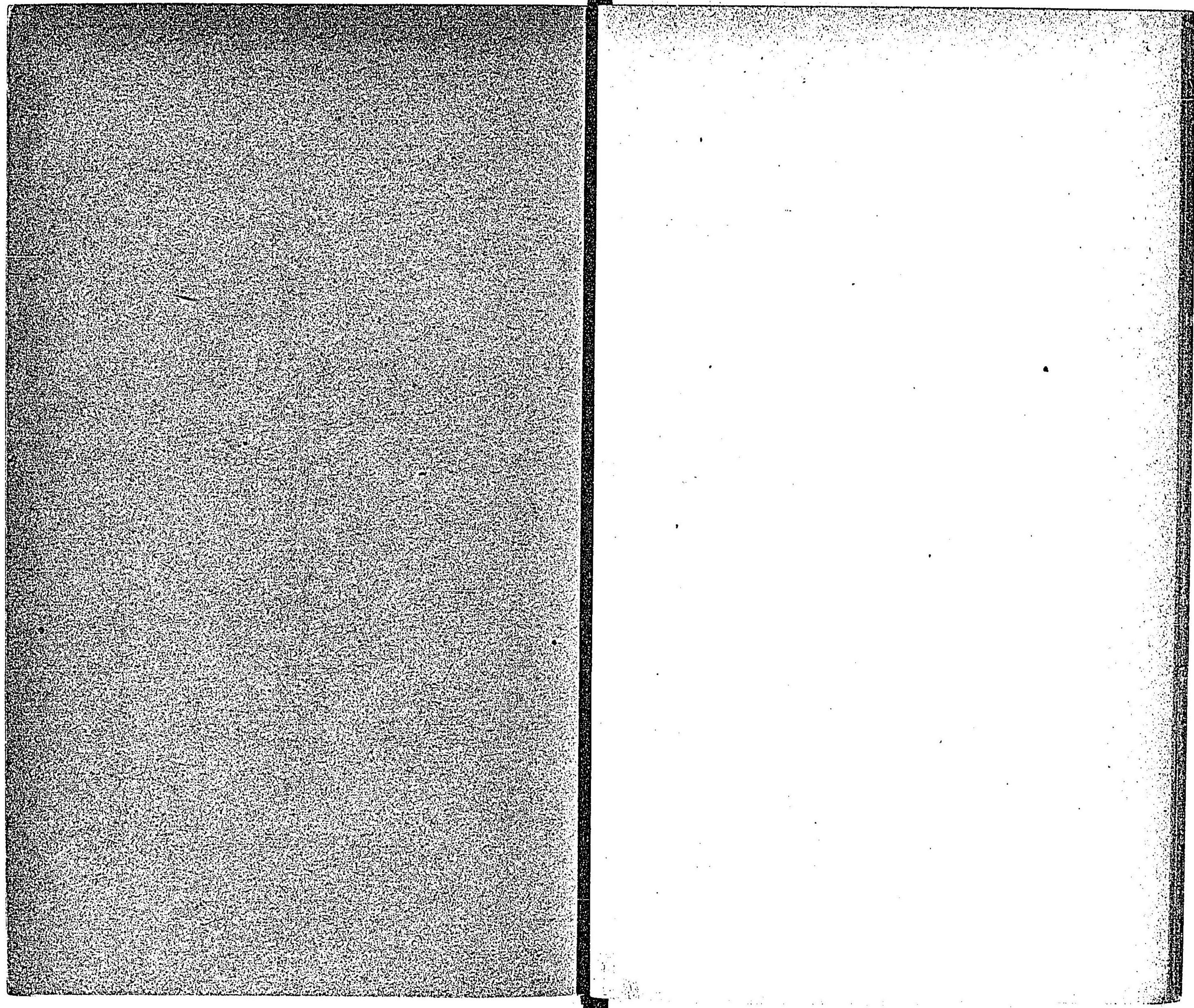
第二百九十八條 人ノ建造物又ハ船舶ヲ毀壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百九十九條 前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ毀損又ハ傷害シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス但告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三百條 自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ又ハ物權ヲ設定シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ毀損又ハ傷害シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル

改正刑法草案終



改正刑事訴訟法草案

東京專門學校出版部藏版

改正刑事訴訟法草案目次

第一編 總則

第一章 裁判所ノ管轄

第一節 事物管轄

第二節 土地管轄

第三節 管轄ノ指定及ヒ移轉

第二章 裁判所職員ノ除斥、忌避及ヒ回避

第三章 證據

第四章 被告人ノ呼出、勾引及ヒ勾留

第五章 被告人ノ訊問

第六章 檢證、差押及ヒ搜索

一 一 頁
一 一
二 一
三 二
六 三
九 六
一 九
二 一
三 二
四 三

第七章	證言	三二
第八章	鑑定及ヒ通譯	三八
第九章	辯護及ヒ輔佐	四〇
第十章	書類	四二
第十一章	送達	四七
第十二章	期間	四七
第十三章	裁判	四八
第二編	第一審	五〇
第一章	公訴	五〇
第一節	通則	五〇
第二節	公訴ノ準備	五二
第三節	公訴ノ提起	五七

第二章	豫審	五八
第三章	公判	六七
第三編	上訴	七七
第一章	總則	七七
第二章	控訴	七九
第三章	上告	八二
第四章	抗告	九〇
第四編	再審	九四
第五編	特別訴訟手續	九九
第一章	大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續	九九
第二章	監置及ヒ懲治ニ關スル手續	一〇一
第六編	裁判ノ執行	一〇二

第七編 私訴

第一章 總則

第二章 訴訟手續

110

110

112

改正刑事訴訟法草案目次終

刑事訴訟法

第一編 總則

第一章 裁判所ノ管轄

第一節 事物管轄

- 第一條 裁判所ノ事物管轄ハ裁判所構成法ノ規定ニ從フ
- 第二條 裁判所構成法第十六條ニ記載シタル罪ニ付テハ再犯又ハ併合罪トシテ處分ス可キ場合ト雖モ區裁判所之ヲ管轄ス
- 第三條 二個以上ノ本刑アル罪ニシテ其刑裁判所構成法第十六條ノ規定ニ適セサルモノアルトキハ地方裁判所其事件ヲ管轄ス
- 第四條 裁判所構成法第五十條第二號ニ記載シタル皇族ノ犯罪ノ共犯ハ大審院之ヲ管轄ス但大審院ノ判決アルマテ起訴セラレサル者ハ此限ニ在ラス
- 第五條 同一ノ被告人又ハ共犯ノ一人若クハ數人事物管轄ヲ異ニスル數個ノ犯罪アルトキハ上級ノ裁判所併セテ之ヲ管轄ス但上級裁判所ノ判決アルマテ起

第一章 裁判所ノ管轄

訴セラレサルモノハ此限ニ在ラス

共犯ノ一人若クハ數人他罪ニ付キ共犯アル場合ニ於テ其共犯ノ犯シタル數個ノ罪事物管轄ヲ異ニスルトキ亦同シ

前二項ノ場合ニ於テ上級裁判所併セテ管轄スルコトヲ必要トセサル事件ハ決定ヲ以テ之ヲ通常管轄ノ下級裁判所ニ移付スルコトヲ得

第六條 贓物ニ關スル罪ノ犯人ハ事物管轄ニ付テハ其罪ノ牽連スル罪ノ犯人ノ從犯ト看做ス

第二節 土地管轄

第七條 裁判所ノ土地管轄ハ犯罪地又ハ被告人ノ所在地ニ依ル

第八條 同一ノ被告人ニシテ土地管轄ヲ異ニスル數個ノ犯罪アルトキハ一個ノ裁判所併セテ之ヲ管轄ス

第九條 土地管轄ヲ異ニスル數人ノ正犯アルトキハ一個ノ裁判所併セテ之ヲ管轄ス

第十條 準正犯及ヒ從犯ハ正犯ヲ管轄スル裁判所併セテ之ヲ管轄ス

共犯ノ一人又ハ數人他罪ニ付キ共犯アルトキハ他罪ノ共犯ハ其正犯準正犯又ハ從犯タルニ拘ハラス併セテ之ヲ管轄ス

第十一條 數個ノ裁判所管轄權ヲ有スル場合ニ於テハ最初ニ公訴ヲ受ケタル裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス

第十二條 前二條ノ規定ニ依ル管轄裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ第七條乃至第九條ノ規定ニ從ヒ管轄權ヲ有スル他ノ裁判所ニ其事件ノ全部又ハ一部ノ審判ヲ囑託スル決定ヲ爲スコトヲ得

第十三條 第六條ノ規定ハ土地管轄ニ之ヲ準用ス

第三節 管轄ノ指定及ヒ移轉

第十四條 左ノ場合ニ於テハ檢事ハ關係裁判所ノ直近上級裁判所ニ裁判管轄指定ノ請求ヲ爲スコトヲ得

- 一 裁判所ノ管轄區域明確ナラサル爲メ管轄裁判所ノ定マラサルトキ
- 二 確定裁判ニ因リ數個ノ裁判所管轄權ヲ有スルトキ
- 三 管轄權ヲ有セストノ確定裁判アリタル事件ニ付キ他ニ其事件ヲ管轄ス

可キ裁判所アラサルトキ

四

第十五條 帝國外ニ於テ犯シタル罪ニ付キ審判ヲ爲ス可キ場合ニ於テ管轄裁判
ナキトキハ檢事總長ハ大審院ニ裁判管轄指定ノ請求ヲ爲スコシ

第十六條 左ノ場合ニ於テハ檢事ハ其直近上級裁判所ニ裁判管轄移轉ノ請求ヲ
爲スコシ

- 一 管轄裁判所又ハ裁判所構成法第十三條第二項ニ依リ定メタル裁判所ニ
於テ法律上ノ原由又ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコト能ハサルトキ
- 二 被告人ノ身分、地方ノ民心又ハ訴訟ノ模様ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スル
コト能ハサル虞アルトキ

第十七條 前條第二號ノ場合ニ於テハ被告人亦裁判管轄移轉ノ請求ヲ爲スコト
ヲ得

第十八條 犯罪ノ性質、被告人ノ身分、地方ノ民心其他重大ナル事情ノ爲メ審判ヲ
爲スニ因リ公安ヲ害スル虞アルトキハ檢事總長ハ大審院ニ裁判管轄移轉ノ請
求ヲ爲スコシ

第十九條 裁判管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ爲スニハ其理由ヲ附シタル請求書
ヲ管轄裁判所ニ差出スコシ

第二十條 檢事裁判管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求書ヲ差出スニハ管轄裁判所ノ檢
事ヲ經由可スシ

裁判所ニ繫屬スル事件ニ付キ請求ヲ爲シタルトキハ速ニ其裁判所ニ通知ス可
シ

第二十一條 檢事第十六條第二號ニ記載シタル事由ノ爲メ裁判管轄移轉ノ請求
ヲ爲ス場合ニ於テ其事件裁判所ニ繫屬スルトキハ請求書ノ謄本ヲ被告人ニ送
達スコシ

被告人ハ請求書ノ謄本ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三日内ニ意見書ヲ差出スコト
ヲ得

被告人ノ意見書ハ之ヲ裁判管轄移轉ノ請求書ニ添附スコシ

第二十二條 被告人裁判管轄移轉ノ請求書ヲ差出スニハ原裁判所ヲ經由スコシ
裁判所請求書ヲ受取リタルトキハ速ニ之ヲ其裁判所ノ檢事ニ送致スコシ

檢事ハ請求書ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致ス可シ

第二十三條 裁判管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求アリタル場合ニ於テ其事件裁判所ニ繫屬スルトキハ裁判所ハ請求ノ決定アルマテ其處分ヲ停止ス可シ但急速ヲ要スル處分ハ此限ニ在ラス

第二十四條 裁判管轄ノ指定又ハ移轉ニ付キ請求ヲ受ケタル裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ左ノ區別ニ從ヒ決定ヲ爲ス可シ

一 裁判管轄指定ノ請求ヲ理由アリトスルトキハ其事件ノ管轄裁判所ヲ指定ス

二 裁判管轄移轉ノ請求ヲ理由アリトスルトキハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ其事件ノ管轄ヲ移轉ス

三 裁判管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求其規定ニ違ヒ又ハ其請求ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ棄却ス

第一章 裁判所職員ノ除斥、忌避及ヒ回避

第二十五條 判事法律上其職務ノ執行ヨリ除斥セララルル場合左ノ如シ

一 判事被害者ナルトキ

二 判事ト被告人又ハ被害者ト配偶者又ハ四親等内ノ血族若クハ三親等内ノ姻族ナルトキ但親族關係ノ止ミタル後亦同シ

三 判事其事件ニ付キ證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ

四 判事被告人若クハ被害者ノ法定代理人ナルトキ

五 判事前審ノ裁判ニ干與シタルトキ

第二十六條 判事職務ノ執行ヨリ除斥セララルトキ又ハ偏頗ノ恐アルトキハ當事者之ヲ忌避スルコトヲ得

第二十七條 本案ニ付キ請求又ハ陳述ヲ爲シタル後ハ偏頗ノ恐アリトシテ判事ヲ忌避スルコトヲ得ス但忌避ノ原由其後ニ發生シタルトキ又ハ當事者其原由アルコトヲ知ラサリシトキハ此限ニ在ラス

第二十八條 忌避ノ申立ハ判事所屬ノ裁判所ニ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

忌避ノ原由及ヒ前條但書ノ事實ハ申立ヲ爲シタル日ヨリ二日内ニ書面ヲ以テ

之ヲ疏明ス可シ

忌避セラレタル判事ハ忌避ノ申立ニ對シ意見書ヲ差出スコトヲ得

第二十九條 合議裁判所ノ判事又ハ豫審判事忌避セラレタルトキハ其判事所屬ノ裁判所忌避ニ付テノ決定ヲ爲ス可シ

忌避セラレタル判事ハ前項ノ決定ニ干與スルコトヲ得ス

裁判所忌避セラレタル判事ノ退去ニ因リ決定ヲ爲スコト能ハサルトキハ直近上級ノ裁判所決定ヲ爲ス可シ

區裁判所判事忌避セラレタルトキハ所屬ノ地方裁判所忌避ニ付テノ決定ヲ爲ス可シ但區裁判所判事忌避ノ申立ヲ理由アリトスルトキハ其決定アリタルモノト看做ス

第三十條 忌避ノ申立アリタルトキハ訴訟手續ヲ停止ス可シ但急速ヲ要スル處分ハ此限ニ在ラス

第三十一條 忌避ノ申立ヲ棄却シタル決定ニ對スル抗告ノ提起期間ハ決定ノ告知アリタル日ヨリ三日トス

前條ノ規定ハ抗告ノ提起期間内及ヒ抗告アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十二條 忌避申立ノ管轄裁判所ハ第二十五條ニ記載シタル事實アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ除斥ノ決定ヲ爲ス可シ

第二十八條第三項及ヒ第二十九條第二項第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條 判事自ラ忌避セラル可キ原由アリト思料スルトキハ回避ヲ爲スコトヲ得

回避及ヒ其決定ニ付テハ第二十八條第一項及ヒ第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第三十四條 前二條ノ決定ハ之ヲ當事者ニ送達セス

第三十五條 本章規定ハ裁判所書記ニ之ヲ準用ス但決定ハ書記所屬ノ裁判所之ヲ爲ス可シ

第三章 證據

第三十六條 裁判ノ資料タル可キ證據ハ裁判所又ハ判事ノ直接ニ取調ヲ爲シタルモノニ限ル

第三十七條 左ニ記載シタル書類及ヒ圖畫ハ前條ノ規定ニ拘ハラズ之ヲ證據ト爲スコトヲ得

一 裁判所又ハ判事其他法律ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル者若クハ條約ニ依リ訴訟上ノ共助ヲ爲ス外國ノ官廳又ハ官吏ノ爲シタル檢證、搜索、差押又ハ被告人共同被告人、證人、鑑定人ノ陳述ニ付テノ調書若クハ檢事、司法警察官此等ノ處分ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ニ於テ其爲シタル處分ニ付テノ調書

二 裁判所又ハ判事其他法律ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル者若クハ條約ニ依リ訴訟上ノ共助ヲ爲ス外國ノ官廳又ハ官吏ノ命令ニ因リ差出シタル鑑定書又ハ檢事、司法警察官鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得ヘキ場合ニ於テ其命令ニ因リ差出シタル鑑定書

三 裁判所又ハ判事其他法律ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル者若クハ條約ニ依リ訴訟上ノ共助ヲ爲ス外國ノ官廳又ハ官吏被告人共同被告人、證人、鑑定人ヲ訊問シ又ハ鑑定ヲ爲サシムルニ當リ若クハ檢事、司法警察官此等ノ處

分ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ニ於テ其處分ヲ爲スニ當リ物ノ員數、計算、形狀其他口頭ノ説明ヲ不便ナリトスル事實ニ付キ其説明ニ代ヘ被告人共同被告人、證人、鑑定人ヨリ差出シタルモノニシテ調書又ハ鑑定書ニ添附シタル書類又ハ圖畫

四 人ノ身分、年齢、前科其他官吏、公吏ノ職務ヲ以テ證明スルコトヲ得ヘキ事實ニ付キ官吏、公吏ノ作りタル書類

五 前號ノ事實ニ付キ外國ノ官吏、公吏ノ作りタル書類ニシテ其真正ナルコトヲ證明シタルモノ

第三十八條 事實ノ認定ハ證據ニ依ル證據ノ證明力ハ判事ノ自由ナル判斷ニ任ス

第四章 被告人ノ呼出、勾引及ヒ勾留

第三十九條 裁判所公訴ヲ受ケタルトキハ被告人ヲ呼出ス可シ罰金又ハ輕罪ノ刑ニ該ル可キ被告人ニ付テハ代人ノ出頭ヲ許スコトヲ得但必要ナル場合ニ於テハ本人ノ出頭ヲ命スルコトヲ妨ケズ

第四章 被告人ノ呼出、勾引及ヒ勾留

第四十條 被告人ヲ呼出スニハ呼出狀ヲ發ス可シ

被告人ヨリ期日ニ出頭ス可キ旨ヲ記載シタル書面ヲ差出シ又ハ出廷シタル被告人ニ對シ口頭ヲ以テ次回ノ出頭ヲ命シタルトキハ呼出狀ヲ送達シタルト同一ノ效力ヲ有ス但口頭ヲ以テ出頭ヲ命シタル場合ニ於テハ其旨ヲ調書ニ記載ス可シ

監獄ニ在ル被告人ニ對シテハ監獄ノ官吏ニ通知シテ之ヲ呼出スコトヲ得此場合ニ於テハ監獄ノ官吏ヨリ被告人ニ通知シタル時ヲ以テ呼出狀ノ送達アリタルモノト看做ス

第四十一條 呼出ニ因リ出頭シタル被告人ハ速ニ之ヲ訊問ス可シ遅クトモ出頭ノ日ヲ過クルコトヲ得ス

第四十二條 裁判所ハ呼出ニ因ラスシテ出頭シタル者ト雖モ被告人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

第四十三條 裁判所ハ呼出ヲ受ケタル被告人其日時ニ出頭セサルトキハ更ニ呼出ヲ爲シ又ハ勾引ヲ命スルコトヲ得

第四十四條 裁判所ハ左ノ場合ニ於テハ直ニ被告人ノ勾引ヲ命スルコトヲ得

一 被告人定マリタル住居ヲ有セサルトキ

二 被告人罪證ヲ湮滅スル虞アルトキ

三 被告人逃亡シタルトキ又ハ逃亡スル虞アルトキ

第四十五條 罰金又ハ輕罪ノ刑ニ該ル可キ被告人ハ前條第一號ニ記載シタル事由アルニ非サレハ之ヲ勾引スルコトヲ得ス但第四十三條及ヒ第六十三條ノ場合ハ此限ニ在ラス

第四十六條 被告人ノ勾引ヲ命スルニハ勾引狀ヲ發ス可シ

第四十七條 勾引シタル被告人ハ裁判所ニ引致シタル時ヨリ四十八時間内ニ之ヲ訊問ス可シ若シ其時間内ニ勾留狀ヲ發セサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ被告人ノ釋放ヲ命ス可シ

第四十八條 裁判所ハ被告人ヲ訊問シタル後現ニ勾引ヲ命スルコトヲ得ヘキ事由アルトキハ其勾留ヲ命スルコトヲ得

被告人監獄ニアルトキハ前項ニ記載シタル事由ナシト雖モ其勾留ヲ命スルコ

トヲ得

一四

第四十九條 裁判所ハ必要ナル場合ニ於テハ前二條ニ記載シタル處分ヲ其部員ニ命スルコトヲ得

第五十條 被告人ノ勾留ヲ命スルニハ勾留狀ヲ發ス可シ

第五十一條 裁判所ハ被告人所在地ノ豫審判事區裁判所判事其他法律ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル者又ハ檢事若クハ司法警察官ニ被告人ノ勾引ヲ囑託スルコトヲ得但電信又ハ電話ヲ以テ囑託ヲ爲スコトキハ豫定ノ符號ヲ用フ可シ
囑託ヲ受ケタル官吏ハ勾引狀ヲ發シ被告人ノ勾引ヲ命ス可シ

第五十二條 裁判所ハ被告人ノ所在地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ檢事長ニ被告人ノ人相書ヲ送致シ其捜査及ヒ勾引ヲ囑託スルコトヲ得
囑託ヲ受ケタル檢事長ハ其管轄地内ノ檢事ヲシテ勾引狀ヲ發シ捜査及ヒ勾引

ノ手續ヲ爲サシム可シ

第五十三條 前二條ノ場合ニ於テ囑託ニ因リ勾引狀ヲ發シタル官吏ハ被告人ヲ引致シタル時ヨリ四十八時間内ニ其人違ナキヤ否ヤヲ取調フ可シ

被告人人違ニ非サルトキハ速ニ之ヲ囑託裁判所ニ送致ス可シ此場合ニ於テハ被告人ヲ囑託裁判所ニ引致シタル時ヨリ第四十七條ニ定メタル期間ヲ起算ス
第五十四條 呼出狀勾引狀勾留狀ニハ被告事件被告人ノ氏名住居ヲ記載シ裁判長裁判所書記ト共ニ之ニ署名捺印ス可シ但呼出狀ヲ除ク外被告人ノ住居分明ナラサルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要セス若シ其氏名分明ナラサルトキハ容貌體格其他ノ徵表ヲ以テ被告人ヲ指定ス可シ

呼出狀ニハ被告人ノ出頭ス可キ日時場所ヲ記載シ勾引狀勾留狀ニハ之ヲ發スル事由ヲ記載ス可シ

第五十五條 前條ノ規定ハ第五十一條第二項及ヒ第五十二條第二項ノ勾引狀ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ勾引狀ニ囑託ニ因リ之ヲ發スル旨ヲ記載ス可シ

第五十六條 呼出狀ハ之ヲ送達ス

勾引狀勾留狀ハ司法警察吏之ヲ執行ス可シ

第五十七條 勾引狀ハ正本數通ヲ作り之ヲ警察吏數人ニ分付スルコトヲ得

第五十八條 司法警察吏ハ必要ナル場合ニ於テハ其管轄地外ニ勾引狀ヲ帶行ス

第四章

被告人ノ呼出、勾引及ヒ勾留

一五

ルコトヲ得

一六

前項ノ場合ニ於テハ其地ノ司法警察官ニ勾引狀ヲ示シ其執行ヲ求ム可シ
急速ヲ要スル場合ニ於テハ前項ノ手續ニ依ラズ自ラ勾引狀ノ執行ヲ爲スコト
ヲ得此場合ニ於テハ速ニ其地ノ司法警察官ニ其旨ヲ通知ス可シ

第五十九條 監獄ニ在ル被告人ニ對シ發シタル勾留狀ハ監獄ノ官吏ヲシテ之ヲ
執行セシム可シ

第六十條 勾引狀ヲ執行スルニハ其正本ヲ被告人ニ示シ速ニ其勾引狀ヲ發シタ
ル裁判所ニ之ヲ引致ス可シ

勾留狀ヲ執行スルニハ其正本ヲ被告人ニ示シ速ニ之ヲ監獄ニ引致ス可シ

第六十一條 勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ハ其正本一通ノ下付ヲ
請求スルコトヲ得

第六十二條 軍人軍屬又ハ陸海軍所屬ノ生徒ニシテ軍所用ノ廳舎又ハ艦船ノ内
ニ在ル者ニ對シ勾引狀ヲ執行ス可キ場合ニ於テハ其所屬ノ長官又ハ隊長若ク
ハ之ニ代ル可キ者ニ勾引狀ヲ示シ其執行ヲ求ム可シ

軍所用ノ廳舎又ハ艦船ノ外ニ在テ現ニ勤務ニ従事スル者ニ對シ勾引狀ヲ執行
ス可キ場合亦同シ

第六十三條 裁判所ハ必要ナル場合ニ於テハ決定ヲ以テ指定ノ場所ニ被告人ノ
同行ヲ命スルコトヲ得若シ被告人正當ノ事由ナクシテ同行ヲ肯セサルトキハ
其勾引ヲ命スルコトヲ得

第六十四條 勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ヲ受ケタル被告人護送ノ途中已ムコトヲ
得サル場合ニ於テハ假ニ最密ノ監獄ニ之ヲ留置クコトヲ得

第六十五條 勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ裁判所ニ引致シタル場合ニ於テ
必要ナルトキハ之ヲ監獄ニ留置クコトヲ得

第六十六條 勾引狀勾留狀ヲ執行シタルトキハ其正本ニ執行ノ場所及ヒ年月日
時ヲ記載シ若シ之ヲ執行スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ記載シテ署名捺印
ス可シ

勾引狀勾留狀ノ執行ニ關スル書類ハ之ヲ檢事ニ差出ス可シ

第六十七條 勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ監獄ニ引致シタル場

第四節 被告人ノ呼出、勾引及ヒ勾留

一七

合ニ於テハ監獄ノ官吏ハ令狀ノ正本又ハ謄本ヲ檢閲シテ被告人ヲ受取り其證書ヲ渡ス可シ

第六十八條 勾留ヲ受ケタル被告人ハ其取締ニ關スル法令ノ範圍内ニ於テ他人ト接見シ又ハ書類物件ノ授受ヲ爲スコトヲ得

第六十九條 裁判所ハ必要トスルトキハ前條ノ規定ニ拘ハラズ勾留ヲ受ケタル被告人ト他人トノ接見ヲ禁シ又ハ他人ト授受ス可キ書類物件ヲ檢閲シ若クハ其授受ヲ禁シ又ハ之ヲ差押フルコトヲ得

第七十條 勾留ノ原由消滅シタルトキハ裁判所ハ當事者ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ勾留ヲ取消ス決定ヲ爲スコシ

第七十一條 裁判所ハ勾留ヲ受ケタル被告人ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ保釋ヲ許スコトヲ得
保釋ヲ許スニ付テハ被告人ヲシテ呼出ニ應シ出頭ス可キ旨ノ證書及ヒ保證金ヲ差出サシム可シ
保證金額ハ裁判所之ヲ定ム可シ

第七十二條 保釋ノ決定ハ保證ヲ差出シタル後之ヲ執行スコシ

檢事ハ被告人ノ請求ニ因リ有價證券又ハ裁判所ノ管轄地内ニ住居シ保證金ヲ納ムルニ十分ナル資産ヲ有スル者ノ差出シタル保證書ヲ以テ保證金ニ充ツルヲ許スコトヲ得

保證書ニハ保證金額及ヒ何時ニテモ其保證金ヲ納ム可キ旨ヲ記載スコシ

第七十三條 裁判所ハ何時ニテモ決定ヲ以テ保釋ヲ取消スコトヲ得
保釋中被告人逃亡シ又ハ罰金以外ノ重罪ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ犯シ若クハ呼出ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セサル爲メ保釋ヲ取消ス場合ニ於テハ裁判所ハ決定ヲ以テ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒取スコシ

第七十四條 勾留若クハ保釋ヲ取消シ又ハ裁判ノ結果ニ依リ勾留狀ノ效力消滅シタルトキハ裁判所ハ沒取ニ係ラサル保證物ヲ還付スコシ

第七十五條 被告事件上告中又ハ抗告中ナルトキハ勾留ノ取消又ハ保釋若クハ其取消ノ決定ハ原裁判所ニ於テ之ヲ爲スコシ

第七十六條 豫審判事及ヒ受命判事ハ被告人ノ呼出勾引及ヒ勾留ニ關シ裁判所

ト同一ノ權ヲ有ス

第七十七條 左ノ場合ニ於テ被告事件急速ニ處分ヲ要シ裁判所又ハ判事ノ勾引狀ヲ求ムル暇ナキトキハ檢事又ハ司法警察官ハ勾引狀ヲ發シ被告人ノ勾引ヲ命スルコトヲ得

- 一 現行犯ノ被告人其場所ニ在ラサルトキ
 - 二 被告人定マリタル住居ヲ有セサルトキ
 - 三 被告人監視ニ付セラレタル者ナルトキ
 - 四 被告人強盜竊盜又ハ囚人逃走ノ罪ヲ犯シタル者ナルトキ
 - 五 死體ノ檢證ニ因リ被告人ヲ發見シタルトキ
- 第七十八條 檢事司法警察官又ハ司法警察吏其職務ヲ行フニ當リ現行犯アルトキハ被告人其場所ニ在リテ現ニ勾引ヲ命スルコトヲ得ヘキ事由アルトキニ限リ左ノ處分ヲ爲ス可シ
- 一 檢事ハ勾引狀ヲ發セスシテ司法警察官又ハ司法警察吏ニ被告人ノ勾引ヲ命ス可シ但必要ナル場合ニ於テハ自ラ之ヲ勾引スルコトヲ得

二 司法警察官ハ勾引狀ヲ發セスシテ直ニ之ヲ勾引シ又ハ其勾引ヲ司法警察吏ニ命ス可シ

三 司法警察吏ハ勾引狀又ハ命令ヲ待タス直ニ被告人ヲ勾引ス可シ

第七十九條 現行犯アル場合ニ於テハ何人ト雖モ其場所ニ在ル被告人ヲ逮捕スルコトヲ得

被告人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事若クハ司法警察官又ハ司法警察吏ニ引渡ス可シ

第八十條 司法警察吏被告人ヲ勾引シタルトキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致ス可シ

被告人ヲ受取リタル場合ニ於テハ逮捕者ノ氏名住居及ヒ逮捕ノ事由ヲ聽取リ前項ノ手續ヲ爲ス可ヘシ若シ必要アルトキハ逮捕者ニ對シ共ニ官署ニ至ルヲ求ムルコトヲ得

第八十一條 司法警察官被告人ヲ勾引シ又ハ之ヲ受取リタルトキハ即時ニ之ヲ訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ直ニ之ヲ釋放ス可シ若シ留置ノ必要

アリト思料スルトキハ遅クトモ四十八時間内ニ書類及證據物件ト共ニ地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事若クハ其他ノ相當官吏ニ送致スル手續ヲ爲ス可シ

第八十二條 司法警察官又ハ司法警察吏檢事ノ命令ニ因リ被告人ヲ勾引シタルトキハ前二條ノ手續ニ依ラス速ニ之ヲ檢事ニ引致ス可シ

第八十三條 檢事被告人ヲ勾引シ又ハ之ヲ受取リタルトキハ遅クトモ二十四時間内ニ之ヲ訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ直ニ之ヲ釋放ス可シ若シ留置ノ必要アリト思料スルトキハ勾留狀ヲ發シ速ニ公訴ヲ提起シ又ハ書類及ヒ證據物件ト共ニ管轄裁判所檢事若クハ其他ノ相當官吏ニ送致スル手續ヲ爲ス可シ

檢事他ノ檢事ヨリ被告人ヲ受取リタルトキハ前項ノ手續ニ準シテ處分ス可シ但留置ノ必要ナシト思料スルトキハ勾留ヲ取消ス可シ

第八十四條 現ニ罪ヲ行ヒ又ハ現ニ罪ヲ行ヒ終リタル際ニ發覺シタルモノヲ現行犯トス

兇器贓物其他ノ物件ヲ所持シ又ハ誰何セラレテ逃走シ若クハ身體被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料ス可キ場合ハ現行犯ニ準ス

第八十五條 第七十七條以下ノ場合ニ於ケル勾引狀、勾留狀ノ方式及ヒ其執行ニ付テハ第五十四條乃至第六十七條ノ規定ヲ準用ス

第八十六條 罰金又ハ輕罪ノ刑ニ該ル可キ罪ノ現行犯ニ付テハ被告人ノ住居又ハ氏名分明ナラス若クハ逃亡ノ虞アル場合ヲ除ク外第七十七條以下ノ規定ヲ適用セス

第五章 被告人ノ訊問

第八十七條 被告人ニ對シテハ先ツ其人違ナキヤ否ヤヲ發見スルニ足ル可キ事項ヲ訊問ス可シ

第八十八條 被告人ニ對シテハ被告事件ヲ告知シ其事件ニ付キ陳述スルコトアルヤ否ヤヲ問ヒ且其利益ト爲ル可キ事實ヲ申立ツル機會ヲ與フ可シ

第八十九條 被告人ノ訊問ヲ爲ストキハ裁判所書記ヲシテ立會ハシム可シ書記ノ立會ヲ得ルコト能ハサル場合ニ於テハ成ル可ク他ノ者ヲシテ立會ハシム可シ

第九十條 事實發見ノ爲メ必要トスルトキハ被告人ト他ノ被告人又ハ證人ト對質セシムルコトヲ得

二四

第九十一條 被告人又ハ對質人盤ナルトキハ書面ヲ以テ問ヒ啞ナルトキハ書面ヲ以テ答ヘシム可シ

第九十二條 鑑定人ノ請求ニ因リ被告人ヲ訊問スル場合又ハ鑑定人ヨリ直接ニ被告人ニ對シ問テ發スルコトヲ許可シタル場合ニ於テハ裁判所ハ其部員ニ命ジ被告人ノ訊問ニ關スル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第六章 檢證、差押及ヒ搜索

第九十三條 裁判所ハ事實發見ノ爲メ必要トスルトキハ犯所又ハ其他ノ場所ニ臨ミ檢證ヲ爲ス可シ

檢證ニ付テハ墳墓ノ發掘又ハ死體ノ解剖ヲ爲スコトヲ得

第九十四條 裁判所ハ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外證據物件又ハ沒收ス可キ物件ト思料スルモノアルトキハ之ヲ差押フ可シ

第九十五條 被告人ヨリ發シ又ハ被告人ニ對シテ發シタル信書、電信又ハ電信原

書ハ郵便電信ノ官署又ハ其他ノ者ヨリ之ヲ差押フルコトヲ得

其他ノ信書、電信又ハ電信原書ハ證據物件ト思料スルニ足ル可キ狀況アル場合ニ限り之ヲ差押フルコトヲ得

第九十六條 被告人其他ノ者ノ遺留シタル物件又ハ所有者若クハ所持人ニ於テ提出ヲ拒マサル物件ハ差押ヲ爲サス之ヲ領置スルコトヲ得

第九十七條 裁判所ハ證據發見ノ爲メ必要トスルトキハ被告人ノ身體物件又ハ住居其他ノ場所ニ就キ搜索ヲ爲スコトヲ得

被告人ニ非サル者ノ身體物件又ハ住居其他ノ場所ハ證據存在スト思料スルニ足ル可キ狀況アル場合ニ限り搜索ヲ爲スコトヲ得

第九十八條 軍事上祕密ヲ要スル場合ニ於テハ其所屬ノ長官又ハ隊長若クハ之ニ代ル可キ者ノ承諾アルニ非サレハ臨檢、差押、領置又ハ搜索ヲ爲スコトヲ得ス

第九十九條 官吏、公吏又ハ官吏、公吏タリシ者ノ保管又ハ所持スル物件ニシテ本人若クハ當該ノ官署、公署ヨリ職務上ノ祕密ニ關スルコトヲ申立ツルモノハ其監督官ノ承諾アルニ非サレハ差押又ハ領置ヲ爲スコトヲ得ス但監督官ハ帝國

ノ安寧ヲ害スル場合ヲ除ク外承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

醫師、藥劑師、產婆、辯護士、辯護人、公證人、神職又ハ宗教ノ職ニ在ル者其業務ニ關シ委託ヲ受ケタル爲メ所持スル物件ニシテ業務上ノ祕密ニ關スルモノハ本人承諾アルニ非サレハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第百條 裁判所ハ差押フ可キ物件又ハ搜索ス可キ場所、身體若シハ物件ヲ指示シ命令狀ヲ發シ司法警察官ヲシテ差押又ハ搜索ヲ爲サシムルコトヲ得
前項ノ命令狀ニハ差押又ハ搜索ヲ爲ス可キ事由ヲ記載シ裁判長裁判書記ト共ニ之ニ署名捺印ス可シ

第百一條 前條ノ命令狀ハ處分ヲ受クル者ノ請求アルトキハ之ヲ示ス可シ

第百二條 司法警察官裁判所ノ命令ニ因リ差押又ハ搜索ヲ爲スニ當リ其被告事件ニ關スル他ノ證據物件ヲ發見シタルトキハ差押又ハ領置ヲ爲シ之ヲ裁判所ニ差出スヘシ

第百三條 裁判所ハ檢證、差押又ハ搜索ノ處分ヲ其部員ニ命シ又ハ之ヲ豫審判事區裁判所判事若クハ法律ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル者ニ囑託スルコトヲ得

但電信又ハ電話ヲ以テ囑託ヲ爲ストキハ豫定ノ符號ヲ用フ可シ

第百四條 日出前、日没後ニハ戸主又ハ保管者若クハ之ニ代ル可キ者ノ承諾アルニ非サレハ檢證、差押又ハ搜索ノ爲メ人ノ住居又ハ人ノ看守シタル邸宅、建築物若クハ船舶ノ内ニ進入スルコトヲ得ス但晝間此等ノ處分ニ著手シタルトキハ日没ト後雖モ其處分ヲ繼續スルコトヲ得

第百五條 左ニ記載シタル場所ニ付テハ前條ノ制限ニ依ルコトヲ要セス

一 被監視人ノ住居

二 旅人宿、飲食店其他夜間ト雖モ公衆出入スルコトヲ得ヘキ場所但其公開時間内ニ限ル

第百六條 人ノ住居又ハ人ノ看守シタル邸宅、建築物若クハ船舶ノ内ニ於テ檢證、差押又ハ搜索ヲ爲ストキハ戸主又ハ其保管者ヲシテ立會ハシム可シ若シ其在ラサルトキハ家族、雇人又ハ鄰佑若クハ市町村吏員ヲシテ立會ハシム可シ但未成年者及ヒ精神障礙アル者ハ之ヲ立會人ト爲スコトヲ得ス
官署、公署又ハ軍所用ノ廳舍若クハ艦船ノ内ニ於テ檢證、差押、領置又ハ搜索ヲ爲

ストキハ其長又ハ之ニ代ル可キ者ヲ立會ハシム可シ

第一百七條 檢事及ヒ辯護人ハ檢證、差押又ハ搜索ノ處分ニ立會フコトヲ得

裁判所ノ許可アリタルトキハ被告人亦前項ノ處分ニ立會フコトヲ得

若シ被告人勾留ヲ受ケタルトキハ自ラ立會フコトヲ得ス但裁判所其立會ヲ必要トスルトキハ此限ニ在ラス

第一百八條 檢證、差押又ハ搜索ヲ爲ス可キ日時ハ裁判所ヨリ豫メ檢事其他前條ノ規定ニ依リ處分ニ立會フコトヲ得ヘキ者ニ通知ス可シ但急速ノ處分ヲ要スル爲メ通知ノ暇ナキ場合ハ此限ニ在ラス

第一百九條 檢證、差押、領置又ハ搜索ノ處分ヲ爲スニ付キ必要ナルトキハ司法警察官又ハ司法警察吏ヲシテ其補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第一百十條 檢證、差押、領置又ハ搜索ノ處分中ハ何人ニ限ラス許可ヲ得シテ其場所ニ出入スルヲ禁スルコトヲ得

若シ其禁ヲ犯ス者アルトキハ之ヲ逐斥シ又ハ其處分ノ終ルマデ之ヲ留置スルコトヲ得

第一百一條 檢證、差押、領置又ハ搜索ノ處分ヲ中止スルトキハ其場所ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クコトヲ得

第一百十二條 差押又ハ領置ヲ爲シタルトキハ品目ヲ記載シタル調書又ハ目錄ノ拔書若クハ謄本ヲ所有者又ハ保管者ニ交付ス可シ

第一百十三條 差押又ハ領置ヲ爲シタル物件ハ喪失又ハ毀損ヲ防ク爲メ相當ノ處置ヲ爲ス可シ

若シ運搬スルニ不便ナル物件又ハ裁判所ニ於テ保管スルニ不便ナル物件ナルトキハ看守者ヲ置キ又ハ所有者其他ノ者ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得

第一百十四條 差押又ハ領置ヲ爲シタル物件ニシテ之ヲ留置スル必要ナキモノハ檢事ノ意見ヲ聽キ被告事件ノ處分終結ヲ待タズ決定ヲ以テ之ヲ還付ス可シ但犯罪行為ニ因リ得タル物件ニシテ被害者ニ還付ス可キ理由明瞭ナルモノハ假ニ之ヲ被害者ニ還付スルコトヲ得

第一百十五條 第八十九條ノ規定ハ檢證、差押、領置又ハ搜索ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス但第一百六條ノ場合ニ於テハ書記ノ立會ヲ得ルコト能ハサルトキト雖モ該條

ノ規定ニ從フ外別段ノ立會人アルコトヲ要セス

三〇

第一百十六條 豫審判事受命判事及ヒ受託判事ハ檢證差押及ヒ搜索ニ關シ裁判所ト同一ノ權ヲ有ス但豫審判事ハ必要ナル場合ニ於テハ其裁判所ノ豫審判事ニモ此等ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得

第一百十七條 檢事ハ第七十七條乃至第八十六條ノ規定ニ依リ被告人ヲ勾引シ又ハ其勾引ヲ命スルコトヲ得ル事件ニ付テハ公訴ノ提起前ニ限り檢證差押又ハ搜索ヲ爲シ又ハ此等ノ處分ヲ地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事若クハ區裁判所判事ニ囑託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ司法警察官亦檢證差押又ハ搜索ヲ爲シ又ハ此等ノ處分ヲ他ノ司法警察官ニ囑託スルコトヲ得但封書ハ開披ノ權ヲ有スル者ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ開披スルコトヲ得ス

第一百十八條 人ノ住居又ハ人ノ看守シタル邸宅建造物若クハ船舶ノ内ニ現行犯アル場合ニ於テ急速ノ處分ヲ要スルトキハ檢事又ハ司法警察官ハ何時ニテモ其場所ニ進入シ檢證差押又ハ搜索ヲ爲スコトヲ得

第十九條 人ノ住居又ハ看守シタル邸宅建造物若クハ船舶ノ内ニ罰金以外ノ刑ニ該ル可キ重罪ノ現行犯アル場合ニ於テ急速ノ處分ヲ要スルトキハ司法警察官又ハ司法警察吏ハ被告人ヲ逮捕スル爲メ何時ニテモ其場所ニ進入シ立會人ヲクシテ之ヲ搜索スルコトヲ得

檢事司法警察官又ハ司法警察吏現行犯ノ被告人ヲ逮捕スル爲メ追行シタル場合ニ於テ被告人住居邸宅建造物又ハ船舶ノ内ニ逃入リタルトキ亦前項ニ同シ
第一百二十條 第一百十八條及ヒ前條第一項ノ規定ハ第八十四條第二項ノ場合ニハ之ヲ適用セス

第一百二十一條 司法警察吏勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スル場合ニ於テ必要ナルトキハ人ノ住居又ハ人ノ看守シタル邸宅建造物若クハ船舶ノ内ニ進入スルコトヲ得若シ被告人潛匿シタルトキハ搜索ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 變死人又ハ變死人ト思料ス可キ者ノ死體アルトキハ其所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ檢事其檢視ヲ爲ス可シ

前項ノ處分ニ因リ犯罪アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ急速ノ處分ヲ要スル

トキハ引續キ檢證ヲ爲スコトヲ得
檢事ハ必要ナル場合ニ於テハ司法警察官ヲシテ前二項ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二十三條 檢事又ハ司法警察官ノ爲ス檢證、差押、領置又ハ搜索ニ付テハ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外第九十三條乃至第九十九條及ヒ第三百三條乃至第四百四條ノ規定ヲ準用ス但決定ハ之ヲ爲スコトヲ得ス
司法警察吏ノ爲ス搜索ニ付キ亦同シ

第七章 證言

第二百二十四條 裁判所ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外何人ト雖モ證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

第二百五條 官吏、公吏又ハ官吏、公吏タリシ者ノ知得タル事實ニシテ本人若クハ當該ノ官署、公署ヨリ職務上ノ祕密ニ關スルコトヲ中立ツルモノニ付テハ其監督官ノ承諾アルニ非サレハ其者ヲ證人トシテ訊問スルコトヲ得ス但監督官ハ帝國ノ安寧ヲ害スル場合ヲ除ク外承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二百二十六條 左ニ記載シタルモノハ證言ヲ拒ムコトヲ得

一 被告人ノ親族但親族關係ノ止ミタル後亦同シ

二 被告人ト後見人、後見監督人又ハ保佐人タル關係アル者

第二百二十七條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ證言ヲ拒ムコトヲ得

一 醫師、藥劑師、產婆、辯護士、辯護人、公證人、神職又ハ宗教ノ職ニ在ルモノ其業務ニ關シ委託ヲ受ケタルコトニ因リ知得タル事實ニシテ祕密ニス可キトキ

二 證人ノ陳述ニ因リ其證人又ハ其證人ト前條ニ記載シタル關係アル者刑事上ノ訴追ヲ招ク可キ恐アルトキ

第二百二十八條 前二條ノ規定ニ從ヒ證言ヲ拒ム者ハ之ヲ拒ム事由ヲ説明ス可シ但前條第二號ノ場合ニ於テハ其事由ノ相違ナキ旨ノ宣誓ヲ以テ説明ニ代フルコトヲ得

證言ヲ拒ム者之ヲ拒ム事由ヲ説明スルコト能ハス又ハ宣誓ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ其中立ヲ棄却ス可シ

第二百二十九條 第四十條ノ規定ハ證人ノ呼出ニ之ヲ準用ス

第三百十條 呼出狀ヲ受ケ又ハ認廷ニ於テ裁判所ヨリ出頭ノ命ヲ受ケタル證人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ三十圓以下ノ過料ヲ科シ及ヒ不參ニ因リ生シタル費用ノ賠償ヲ命スルコトヲ得

前項ノ決定ニ對スル抗告ノ提起期間ハ決定ノ告知アリタル日ヨリ三日トス
抗告ノ提起期間内及ヒ抗告アリタルトキハ決定ノ執行ヲ停止ス

第三百十一條 呼出ニ應セサル證人ニ對シテハ更ニ呼出狀ヲ發シ又ハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第三百十二條 過料ヲ科シ且費用ノ賠償ヲ命セラレタル證人已ムコトヲ得サル事由ノ爲メ出頭セザリシコトヲ疏明シタルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ過料及ヒ費用賠償ノ決定ヲ取消ス可シ

第三百十三條 證人ノ呼出狀勾引狀ニハ其氏名住居及ヒ之ヲ發スル事由ヲ記載シ裁判長裁判所書記ト共ニ之ニ署名捺印ス可シ
又呼出狀ニハ出頭ス可キ日時場所及ヒ出頭セサルトキハ過料ヲ科シ且勾引ス

ルコトアル可キ旨ヲ記載ス可シ

呼出狀ノ送達ト出頭トノ間ニハ少シトモ二十四時ノ猶豫ヲ存ス可シ但急速ヲ要スルトキハ此限ニ在ス

第三百十四條 勾引狀ノ執行ニ付テハ第五十六條乃至第五十八條及ヒ第六十條乃至第六十六條ノ規定ヲ準用ス

第三百十五條 證人出頭シタルトキハ先ツ其人違ナキヤ否ヤヲ取調ヘ證人ヲシテ宣誓セシム可シ

宣誓ハ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ黙秘セス又何事ヲモ附加セサル旨ヲ記載シタル書面ニ依リ之ヲ爲ス可シ

宣誓書ハ裁判所書記之ヲ朗讀シ證人ヲシテ之ニ署名捺印セシム可シ

第三百十六條 宣誓ス可キ證人ニ對シテハ裁判所ハ宣誓前ニ宣誓ノ效果ヲ告知ス可シ

第三百二十六條及ヒ第三百二十七條第一號ニ記載シタル者ニ對シテハ證言セシム可キ事實ノ訊問前證言ヲ拒ムコトヲ得ル旨ヲ告知ス可シ

第三百三十七條 同一ノ被告事件ニ付キ數名ノ證人出頭シタル場合ニ於テハ其宣誓ハ同時ニ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第三百三十八條 左ニ記載シタル者ハ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問ス可シ

一 十五歳未満ノ者

二 精神障礙ニ因リ宣誓ノ本旨及ヒ效果ヲ了解スルコト能ハサル者

三 第二百二十七條ノ規定ニ依リ證言ヲ拒ム權利アリテ之ヲ行使セサル者

第三百三十九條 證人ハ各別ニ之ヲ訊問ス可シ但必要ナル場合ニ於テハ證人ト他ノ證人又ハ被告人ト對質セシムルコトヲ得

第四百十條 第四十二條、第八十條、第九十一條及ヒ第九十二條ノ規定ハ證人ノ訊問ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第四百十一條 裁判所ハ必要ナル場合ニ於テハ裁判所外ト雖モ指定ノ場所ニ證人ヲ呼出シ又ハ證人ノ所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

第四百十二條 皇族證人ナルトキハ其所在ニ就キ之ヲ訊問ス可シ

各大臣ハ其官廳所在地ノ裁判所ニ於テ之ヲ訊問シ若シ其所在地外ニ滞在スル

トキハ其滞在地ヲ管轄スル裁判所ニ於テ之ヲ訊問ス可シ

帝國議會ノ議員議會ノ開期中開會地ニ滞在スルトキハ其滞在地ヲ管轄スル裁判所ニ於テ之ヲ訊問ス可シ

第四百十三條 證人正當ノ事由ナクシテ宣誓ヲ拒ミ又ハ宣誓シテ證言ヲ拒ミタルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ五十圓以下ノ過料ヲ科ス可シ但本案ノ裁判前宣誓又ハ證言ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ過料ノ決定ヲ取消ス可シ
前項ノ規定ハ第二百二十八條第一項但書ノ場合ニ於テ虛偽ノ宣誓ヲ爲シタル者ニ之ヲ準用ス

第四百十四條 前條ノ決定ニ對スル抗告ノ提起期間ハ決定ノ告知アリタル日より三日トス

抗告ノ提起期間及ヒ抗告アリタルトキハ決定ノ執行ヲ停止ス

第四百十五條 裁判所ハ必要ナル場合ニ於テハ決定ヲ以テ犯所其他ノ場所ニ證人ノ同行ヲ命スルコトヲ得若シ證人正當ノ事由ナクシテ同行ヲ肯セサルトキハ第三百三十條ノ規定ニ從ヒ處分ス可シ

第四百十六條 裁判所ハ裁判所外ニ於テ證人ヲ訊問ス可キトキハ之ヲ其部員ニ命シ又ハ豫審判事若クハ區裁判所判事ニ囑託スルコトヲ得

第四百十七條 豫審判事受命判事及ヒ受託判事ハ證人訊問ニ關シ裁判所ト同一ノ權ヲ有ス但豫審判事ハ必要ナル場合ニ於テハ其裁判所ニ於テ證人ヲ訊問ス可キトキト雖モ他ノ豫審判事ニ訊問ヲ囑託スルコトヲ得

第四百十八條 檢事及ヒ司法警察官ハ第七十七條乃至第八十六條ノ規定ニ依リ被告人ヲ勾引シ又ハ其勾引ヲ命スルコトヲ得ル事件ニ付テハ公訴ノ提起前ニ限リ第二百二十四條以下ノ規定ニ從ヒ證人ヲ訊問スルコトヲ得但決定ハ之ヲ爲スコトヲ得ス證人ニ對シ過料ヲ科ス可キ場合ニ於テハ證人ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ其處分ヲ請求ス可シ

第四百十九條 證人ハ出頭ニ付テノ旅費及ヒ日當ヲ請求スルコトヲ得但正當ノ事由ナクシテ宣誓又ハ證言ヲ拒ミタル者ハ此限ニ在ラス

第八章 鑑定及ヒ通譯

第五十條 鑑定ハ學術技藝アル者又ハ職業ニ因リ經驗アル者ニ裁判所之ヲ命

ス

第五十一條 鑑定人ニハ鑑定ヲ爲ス前ニ公平且誠實ニ鑑定ヲ爲ス可キ旨ヲ宣誓セシム可シ

第五十二條 鑑定ス可キ事項ハ裁判所之ヲ指定ス可シ

鑑定ノ手續及ヒ結果ハ鑑定人ヲシテ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ報告セシム可シ
第五十三條 鑑定ニ付キ必要ナル場合ニ於テハ裁判所ハ鑑定ニ關スル物件ヲ鑑定人ニ交付シ裁判所外ニ於テ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

被告人ノ精神又ハ身體ニ關スル鑑定ヲ爲サシムルニ付テ必要ナルトキハ裁判所ハ期間ヲ定メ病院其他相當ノ場所ニ被告人ヲ留置スルヲ命スルコトヲ得

第五十四條 鑑定人ハ鑑定ニ付キ必要ナル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ得テ書類若クハ證據物件ヲ閱覽シ又ハ被告人證人ノ訊問ニ立會フコトヲ得

鑑定人ハ被告人證人ノ訊問ヲ求メ又ハ許可ヲ得テ直接ニ此等ノ者ニ對シ問ヲ發スルコトヲ得

第五十五條 裁判所ハ其部員ニ命シ鑑定ヲ命スル手續ヲ爲サシメ又ハ前條ノ

規定ニ依リ裁判所ニ屬スル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百五十六條 裁判所ハ鑑定人ヲ増加シ又ハ別人ヲシテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百五十七條 檢事及ヒ辯護人ハ鑑定ニ立會フコトヲ得

第二百五十八條 規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

被告又ハ鑑定人證人又ハ鑑定人國語ニ通セサルトキハ裁判所ハ通事ヲシテ通譯ヲ爲サシム可シ

被告人又ハ證人聲又ハ啞ニシテ文字ニ依リ問答ヲ爲スコト能ハサルトキ亦同シ

第二百五十九條 鑑定ニ付テハ本章ニ規定シタルモノノ外第七章ノ規定ヲ準用ス但鑑定人呼出ニ應セスト雖モ之ヲ勾引スルコトヲ得ス
通譯ニ付テハ鑑定ニ關スル規定ヲ準用ス

第九章 辯護及ヒ輔佐

第六十條 被告人ハ公訴ノ提起アリタル後何時ニテモ辯護人ヲ選任スルコト

ヲ得

被告人ノ法定代理人ハ獨立シテ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

第六十一條 辯護人ハ辯護士ヨリ之ヲ選任ス可シ但裁判所又ハ豫審判事ノ許可ヲ得タルトキハ辯護士ニ非サル者ト雖モ辯護人ト爲スコトヲ得

第六十二條 辯護人ノ數ハ被告人一人ニ付キ三人ヲ超ユルコトヲ得ス

第六十三條 豫審ニ付シタル事件ニ付テハ第二百四十一條ノ手續ヲ爲シタル後豫審ニ付セサル事件ニ付テハ檢事公判ヲ請求シタル後辯護人ハ裁判所内ニ於テ被告事件ニ關スル書類及ヒ證據物件ヲ閱覽シ且其書類ヲ謄寫スルコトヲ得

辯護人ノ立會ヲ許ス可キ豫審處分ニ關スル書類及證據物件ハ豫審中ト雖モ閱覽又ハ謄寫ヲ請求スルコトヲ得

第六十四條 勾留セラレタル被告人ハ其取締ニ關スル法令ノ範圍内ニ於テ辯護人ニ接見シ且之ト書類ノ授受ヲ爲スコトヲ得

被告事件ヲ公判ニ付スル前ニ於テ前項ノ接見ニ官吏ノ立會ヲ命シ又ハ書類ヲ

檢閱シ若クハ其授受ヲ禁スルコトヲ得

四二

第六十五條 辯護人ハ其立會ヲ許サレタル場合ニ於テハ被告人ノ爲スコトヲ得ヘキ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得但事實及ヒ法律ニ付キ辯論ヲ爲ス場合ヲ除外被告人又ハ其法定代理人ノ意ニ反スルコトヲ得ス

第六十六條 被告人ノ法定代理人ハ被告事件公判ニ付セラレタル後何時ニテモ輔佐人ト爲リ獨立シテ被告人ノ爲スコトヲ得ヘキ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得

第十章 書類

第六十七條 訴訟ニ關スル書類ハ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外裁判所書記之ヲ調製ス可シ

第六十八條 被告人、證人ノ訊問又ハ鑑定、通譯ニ付テハ調書ヲ作り左ノ事項ヲ記載ス可シ

- 一 被告人、證人、鑑定人又ハ通事ノ陳述
- 二 證人、鑑定人又ハ通事ノ宣誓ヲ爲シタルコト若シ宣誓ヲ爲ササルトキハ其事由

調書ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ陳述者ニ讀聞カサシメ記載シタル事實ノ相違ナキヤ否ヤヲ問フ可シ

若シ其増減變更ヲ申立テタルトキハ其申立テ調書ニ記載シ更ニ前項ノ手續ヲ爲ス可シ

調書ニハ處分ヲ爲シタル者裁判所書記ト共ニ署名捺印シ陳述者ヲシテ之ニ署名捺印セシム可シ

第六十九條 檢證、差押、領置又ハ搜索ニ付テハ調書ヲ作り其處分ノ手續及ヒ日時其他必要ナル事項ヲ記載ス可シ

差押又ハ領置ヲ爲シタルトキハ其品目ヲ調書ニ記載シ又ハ別ニ目錄ヲ作り之ヲ調書ニ添附ス可シ

調書ニハ處分ヲ爲シタル者裁判所書記ト共ニ署名捺印シ立會人ヲシテ之ニ署名捺印セシム可シ

第七十條 裁判所書記ノ立會ナクシテ被告人、證人ヲ訊問シ鑑定、通譯ヲ爲サシメ又ハ檢證、差押、領置又ハ搜索ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記ノ行フ可キ職務

ハ其處分ヲ爲ス者自ラ之ヲ行フ可シ

第七十一條 公判ニ付テハ調書ヲ作り第六十八條第一項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載ス可シ

- 一 公判ヲ爲シタル裁判所年月日、裁判長、陪席判事、檢事、裁判所書記ノ官氏名及ヒ被告人、辯護人、輔佐人、通事ノ氏名
- 二 辯論ノ公開ヲ禁シタルトキハ其決定及ヒ理由
- 三 訴訟ノ要旨
- 四 證據物件及ヒ朗讀シタル書類
- 五 辯論中當事者辯護人又ハ輔佐人ノ爲シタル請求及ヒ其裁判
- 六 當事者、辯護人又ハ輔佐人ヨリ調書ニ記載ス可キコトヲ請求シ裁判長ニ於テ聽許シタル事項及ヒ裁判長ヨリ記載ヲ命シタル事項
- 七 被告人ヲシテ辯論ノ最終ニ陳述セシメタルコト
- 八 被告人出頭セザリシトキハ其旨
- 九 判決ノ宣告及ヒ其年月日

第七十二條 公判調書ニ付テハ第六十八條第二項乃至第四項ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス

第七十三條 公判ニ於ケル訴訟手續ノ當否ハ公判調書ノミニ依リ之ヲ證明スルコトヲ得

第七十四條 公判調書ハ判決宣告ノ日ヨリ五日內ニ之ヲ整理ス可シ

裁判長ハ公判調書ヲ檢閲シテ之ニ署名捺印ス可シ若シ意見アルトキハ之ヲ其紙尾ニ記載ス可シ

裁判長差支アルトキハ上席ノ陪席判事前項ノ手續ヲ爲ス可シ

第七十五條 裁判ノ原本ハ判事之ヲ作ル可シ但當事者ノ面前ニ於テ宣告ヲ爲ス決定又ハ命令ニ付テハ原本ヲ作ラスシテ之ヲ調書ニ記入セシムルコトヲ得

第七十六條 裁判ノ原本ニハ裁判ヲ爲シタル判事署名捺印ス可シ若シ陪席判事差支アリテ署名捺印スルコト能ハサルトキハ裁判長其事由ヲ附記シ裁判長差支アルトキハ上席ノ陪席判事之ヲ附記ス可シ

第七十七條 裁判書ニハ被告人ノ氏名、住居及ヒ年齢ヲ記載ス可シ

判決書ニハ前項ニ記載シタル事項ノ外公判ニ立會ヒタル検事ノ官氏名ヲ記載ス可シ

第七十八條 裁判書ニハ裁判ヲ爲シタル判事所屬ノ裁判所ノ印ヲ捺捺ス可シ若シ捺捺シ能ハサルトキハ其事由ヲ記載ス可シ

前項ノ規定ハ検事又ハ司法警察官ノ發スル令狀ニ之ヲ準用ス

第七十九條 官吏、公吏ノ作ル可キ書類ニハ年月日及ヒ場所ヲ記載シテ署名捺印シ毎葉ニ契印ス可シ

第八十條 官吏、公吏書類ヲ作ルニハ文字ヲ改竄ス可カラス若シ挿入、削除又ハ欄外記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印シ其字數ヲ記載ス可シ但削除シタル部分ハ之ヲ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存ス可シ

第八十一條 官吏、公吏ニ非サル者ノ作ル可キ書類ニハ本人署名捺印ス可シ若シ署名スルコト能ハサルトキハ他人ヲシテ代書セシメ捺印スルコト能ハサルトキハ花押又ハ拇印ス可シ

他人ヲシテ代書セシメタル場合ニ於テハ代書人其事由ヲ記載シ署名捺印ス可シ

第十一章 送達

第八十二條 當事者、辯護人及ヒ輔佐人ハ書類ノ送達ヲ受クル爲メ其住居ヲ裁判所ニ届出ツ可シ若シ裁判所所在地ニ住居ヲ有セサルトキハ其所在地ニ住居ヲ有スル者ヲ送達受取人ニ選任シテ之ヲ届出ツ可シ

前項ノ届出ハ同一ノ地ニ在ル各審級ノ裁判所ニ對シ其效力ヲ有ス
前二項ノ規定ハ裁判所在地ノ監獄ニ拘禁セララル者ニハ之ヲ適用セス

第八十三條 住居又ハ送達受取人ヲ届出ツ可キ者其届出ヲ爲ササルトキハ書類ノ送達ナシト雖モ之ヲ送達シタルモノト看做ス

第八十四條 検事ニ送達ス可キ書類ハ之ヲ検事局ニ送致スルヲ以テ送達アリタルモノト看做ス

第八十五條 書類ノ送達ニ付テハ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

第十二章 期間

第八十六條

期間ヲ計算スルニ時ヲ以テスルモノハ即時ヨリ之ヲ起算シ日又ハ月若クハ年ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セス但時効期間ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計算ス

一月ト稱スルハ三十日トシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

期間ノ末日大祭日日曜日其他裁判所ノ休日ニ當ルトキハ時効期間ヲ除ク外之ヲ期間ニ算入セス

第八十七條

法定ノ期間ハ訴訟行為ヲ爲ス可キ者裁判所所在地ニ住居セザルトキハ其距離ニ從ヒ海陸路十里毎ニ一日ヲ伸長ス十里ニ滿タサルモ三里以上ナルトキ亦同シ但海路ハ二海里ヲ一里トシテ之ヲ計算ス
外國又ハ交通不便ノ地ニ在ル者ノ爲メニハ裁判所ハ特ニ附加期間ヲ定ムルコトヲ得

第十三章 裁判

第八十八條

判決ハ當事者ノ口頭辯論ニ基キ之ヲ爲ス可シ
決定ハ公判ニ於テハ當事者ノ意見ヲ聽キ之ヲ爲ス可シ其他ノ場合ニ於テハ當

事者ノ意見ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得但特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス

命令ハ當事者ノ意見ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得

決定又ハ命令ヲ爲スニ付キ必要ナル場合ニ於テハ直接ニ證據ノ取調ヲ爲シ又ハ其取調ヲ囑托スルコトヲ得

第八十九條

裁判ニハ理由ヲ附ス可シ但上訴ヲ許ササル決定又ハ命令ニハ理由ヲ附セサルコトヲ得

刑ノ言渡ヲ爲ス判決ノ理由ニハ罪ト爲ル可キ事實並ニ證據ニ依リテ其事實ヲ認メタル理由及ヒ適用スル法律ヲ示ス可シ

第九十條

裁判ノ告知ハ當事者ノ面前ニ於テハ宣告ニ依リ之ヲ爲シ其他ノ場合ニ於テハ送達ニ依リ之ヲ爲ス可シ

第九十一條

裁判ノ宣告ハ裁判長之ヲ爲ス可シ
裁判ノ宣告ハ主文ノ朗讀ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

裁判ニ理由ヲ附シタル場合ニ於テハ主文ノ朗讀ト同時ニ理由ノ全部又ハ其要

領ヲ告知ス可シ

五〇

第九十二條 検事ニ於テ執行ヲ指揮ス可キ裁判ハ宣告ヲ爲シタル場合ト雖モ速ニ其謄本ヲ検事ニ送致ス可シ

第九十三條 被告人其他訴訟ニ付キ利害ノ關係アル者ハ其費用ヲ以テ裁判書ノ正本謄本又ハ抄本ヲ求ムルコトヲ得

第二編 第一審

第一章 公訴

第一節 通則

第九十四條 公訴ハ法律ニ定メタル區別ニ從ヒ検事之ヲ行フ

第九十五條 裁判所ハ公訴ヲ受ケサル事件ニ付キ審判ヲ爲ス可カラズ但特別ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九十六條 公訴ハ検事ノ指定シタル以外ノ被告人ニ其效力ヲ及ホサス但特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス

第九十七條 公訴ハ第一審ノ辯論開始ニ至ルマテ之ヲ取消スコトヲ得

第九十八條 公訴提起權ハ左ノ事由ニ因テ消滅ス

一 被告人ノ死亡

二 告訴又ハ請求ヲ待テ受理ス可キノ事件ニ付テハ告訴又ハ請求ノ取消

三 確定裁判

四 犯罪ノ後施行シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止

五 大赦

六 時効

告訴又ハ請求ノ取消アリト雖モ第一審ノ辯論開始前ニ非サレハ公訴提起權消滅ノ效力ヲ生セス

第九十九條 時効ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ完成ス

一 刑法第二百十四條ノ罪ニ付テハ一月

二 輕罪ニ付テハ六月

三 罰金又ハ五年未滿ノ懲役若シクハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ三年

四 十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年

五 十年以上ノ有期ノ懲役若クハ禁錮又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年

五二

六 死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年

第二百條 二個以上ノ本刑アル罪ノ時効ハ其重キ刑ニ付キ定メタル期間ニ從フ
第二百一條 法律ニ依リ其刑ヲ加量又ハ減輕ス可キ罪ト雖モ其時効ハ加重又ハ減輕セサル刑ニ付キ定メタル期間ニ從フ

第二百二條 時効期間ハ犯罪行為ノ終リタル日ヨリ之ヲ起算ス

第二百三條 時効期間ハ豫審公判又ハ第二百二十三條ニ定メタル判事ノ處分ニ因リ其經過ヲ中斷ス

前項ノ處分アリタルトキハ共犯ニ付キ總テ同一ノ效力ヲ生ス

第二百四條 時効期間ノ經過ヲ中斷シタルトキハ中斷ノ手續ヲ止メタル日ヨリ更ニ其期間ヲ起算ス

第二節 公訴ノ準備

第二百五條 告訴告發ハ書面又ハ口頭ヲ以テ犯罪地若クハ被告人又ハ告訴人告

發人ノ所在地ノ檢事又ハ司法警察官ニ之ヲ爲スコトヲ得

第二百六條 告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ニ付テハ告訴ハ被害者之ヲ爲ス可シ

被害者無能力ナルトキハ其法定代理人告訴ヲ爲スコトヲ得

被害者死去シタルトキハ其親族告訴ヲ爲スコトヲ得但被害者ノ意ニ反シテ告訴ヲ爲スコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ刑法第二百一一條ノ罪ニ之ヲ適用セス

第二百七條 法定代理人被告人ナルトキ又ハ被告人ノ配偶者若クハ四親等内ノ血族又ハ三親等内ノ姻族ナルトキハ被害者ノ親族告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百八條 刑法第二百七十條第二項ノ罪ニ付テハ死者ノ親族又ハ遺族告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百九條 前三條ノ規定ニ依リ被害者ニ代リテ告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ナキ場合ニ於テハ管轄裁判所ノ檢事ハ利害關係人ノ申立ニ因リ告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ヲ指定スルコトヲ得

第二百十條 告訴告發ハ其取消又ハ變更ヲ爲スコトヲ得

五 十年以上ノ有期ノ懲役若クハ禁錮又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年

六 死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年

第二百條 二個以上ノ本刑アル罪ノ時効ハ其重キ刑ニ付キ定メタル期間ニ從フ
第三百一條 法律ニ依リ其刑ヲ加量又ハ減輕ス可キ罪ト雖モ其時効ハ加重又ハ減輕セサル刑ニ付キ定メタル期間ニ從フ

第三百二條 時効期間ハ犯罪行爲ノ終リタル日ヨリ之ヲ起算ス

第三百三條 時効期間ハ豫審公判又ハ第二百二十三條ニ定メタル判事ノ處分ニ因リ其經過ヲ中斷ス

前項ノ處分アリタルトキハ其犯ニ付キ總テ同一ノ效力ヲ生ス

第二百四條 時効期間ノ經過ヲ中斷シタルトキハ中斷ノ手續ヲ止メタル日ヨリ更ニ其期間ヲ起算ス

第二節 公訴ノ準備

第二百五條 告訴告發ハ書面又ハ口頭ヲ以テ犯罪地若クハ被告人又ハ告訴人、告

發人ノ所在地ノ檢事又ハ司法警察官ニ之ヲ爲スコトヲ得

第二百六條 告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ニ付テノ告訴ハ被害者之ヲ爲ス可シ

被害者無能力ナルトキハ其法定代理人告訴ヲ爲スコトヲ得

被害者死去シタルトキハ其親族告訴ヲ爲スコトヲ得但被害者ノ意ニ反シテ告訴ヲ爲スコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ刑法第二百一一條ノ罪ニ之ヲ適用セス

第二百七條 法定代理人被告人ナルトキ又ハ被告人ノ配偶者若クハ四親等内ノ血族又ハ三親等内ノ姻族ナルトキハ被害者ノ親族告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百八條 刑法第二百七十條第二項ノ罪ニ付テハ死者ノ親族又ハ遺族告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百九條 前三條ノ規定ニ依リ被害者ニ代リテ告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ナキ場合ニ於テハ管轄裁判所ノ檢事ハ利害關係人ノ中立ニ因リ告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ヲ指定スルコトヲ得

第二百十條 告訴告發ハ其取消又ハ變更ヲ爲スコトヲ得

第二百一十一條 告訴告發及ヒ其取消變更ハ代人ニ委任シテ之ヲ爲スコトヲ得

第二百一十二條 官吏公吏其職務ヲ行フニ因リ犯罪アリト思料シタルトキハ書面

ヲ以テ犯罪地又ハ被告人所在地ノ檢事ニ告發ス可シ若シ緊急ナル場合ニ於テ

ハ其所在地ノ檢事又ハ司法警察官ニ告發スルコトヲ得

第二百一十三條 告訴又ハ請求ヲ待テ受理ス可キ事件ニ付キ共犯ノ一人又ハ數人

ニ對シテ爲シタル告訴又ハ請求若クハ其取消ハ他ノ共犯ニ對シ亦其效力ヲ生

ス

第二百一十四條 檢事又ハ司法警察官口頭ノ告訴告發又ハ其取消變更ノ申立ヲ受

ケタルトキハ調書ヲ作り之ヲ本人ニ讀聞カセ之ニ署名捺印セシム可シ

第二百一十五條 司法警察官告訴告發ヲ受ケタルトキハ輕罪事件ニ付キ即決ヲ爲

ス可キ場合ヲ除ク外速ニ其書類及ヒ證據物件ヲ管轄ノ裁判所ノ檢事ニ送致ス

可シ

第二百一十六條 自首ニ付テハ告發ニ關スル手續ヲ準用ス

第二百一十七條 檢事告訴告發其他ノ事由ニ因リ犯罪アリト思料シタルトキハ其

證據及ヒ犯人ヲ捜査ス可シ

第二百一十八條 警視總監地方長官及ヒ憲兵司令官ハ各其管轄地内ニ於テ司法警

察官トシテ犯罪ヲ捜査スルニ付キ地方裁判所檢事ト同一ノ權ヲ有ス但東京府

知事ハ此限ニ在ラス

第二百一十九條 左ニ記載シタル者ハ檢事ノ輔佐トシテ其指揮ヲ受ケ司法警察官

トシテ犯罪ヲ捜査ス可シ

一 警視警部長警部

二 憲兵ノ將校下士

第二百二十條 左ニ記載シタル者ハ檢事又ハ司法警察官ノ命令ヲ受ケ司法警察

吏トシテ捜査ノ補助ヲ爲ス可シ

一 巡查

二 憲兵卒

第二百二十一條 森林鐵道稅關其他ノ場所ニ於ケル犯罪又ハ稅務其他ノ事項ニ

關スル犯罪ニ付キ特別ニ司法警察ノ職務ヲ行フ可キ者及ヒ其職務ノ範圍ハ勅

令ヲ以テ之ヲ定ム

第二百二十二條 捜査ニ付テハ強制ノ處分ヲ除ク外其目的ヲ達スルニ必用ナル一切ノ取調ヲ爲スコトヲ得但其取調ニ付テハ證人鑑定人ヲシテ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得ス

又公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第二百二十三條 檢事ハ捜査ヲ爲スニ付キ強制ノ處分ヲ必要ナリトスルトキハ公訴ノ提起前ト雖モ檢證差押捜索又ハ被告人證人ノ訊問若クハ鑑定ノ處分ヲ其所屬裁判所ノ豫審判事又ハ所屬區裁判所ノ判事ニ請求スルコトヲ得
請求ヲ受ケタル豫審判事又ハ區裁判所判事ノ處分ニ付テハ豫審ニ關スル規定ヲ準用ス

本條第一項ノ請求ニ付テハ被告事件其管轄ニ屬スルコトヲ必要トセス

第二百二十四條 豫審判事又ハ區裁判所判事前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其書類及ヒ證據物件ヲ檢事ニ送致ス可シ

第二百二十五條 第二百二十三條ニ依リ豫審判事又ハ區裁判所判事被告人ヲ勾

留シタル事件ニ付キ公訴ヲ提起セザルトキハ檢事ハ速ニ被告人ヲ釋放ス可シ
豫審判事又ハ區裁判所判事差押ヲ爲シタル事件ニ付キ公訴ヲ提起セサル時ハ檢事ハ速ニ其物件ヲ還付ス可シ但必要ナル場合ニ於テハ公訴ノ時効期間經過スルニ至ルマテ之ヲ保管スルコトヲ得
前二項ノ規定ハ第二百二十九條ノ適用ヲ妨ケス

第三節 公訴ノ提起

第二百二十六條 檢事犯罪ノ捜査ヲ爲シ其事件ニ付キ公訴ヲ提起ス可キモノト
思料シタルトキハ豫審又ハ公判ヲ求ム可シ

第二百二十七條 輕罪ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付テハ豫審ヲ求ムルコトヲ得ス但豫審ヲ求ムル事件ト同時ニ取調ヲ爲ス可キ場合ハ此限ニ在ラス

第二百二十八條 公訴ノ提起ハ書面ヲ以テ之ヲ爲ス可シ但急速ヲ要スル場合ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

公訴ヲ提起スルニハ被告人ノ氏名犯罪ノ事實及ヒ罪名ヲ舉示シ證據物件ヲ送致シ且檢證ス可キ場所物件及ヒ證人ト爲ル可キ者ヲ指示ス可シ但被告人證人

ノ氏名分明ナラサルトキハ容貌體格其他ノ徵表ヲ以テ之ヲ指定スルコトヲ得
第二百二十九條 檢事ハ被告事件其所屬裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノト思料シ
タルトキハ書類及ヒ證據物件ト共ニ其事件ヲ管轄裁判所ノ檢事又ハ其他ノ相
當官吏ニ送致ス可シ但被告人勾留ヲ受ケタル場合ニ於テ勾留ノ必要ナシト思
料シタルトキハ之ヲ釋放ス可シ

第二百三十條 告訴ニ係ル事件ニ付キ檢事公訴ヲ提起シ又ハ之ヲ提起セス若ク
ハ其事件ヲ他ノ裁判所ノ檢事又ハ其他ノ官吏ニ送致シタルトキハ速ニ其處分
ヲ告訴人ニ通知ス可シ

第一章 豫審

第二百三十一條 豫審ハ被告事件ヲ公判ニ付ス可キヤ否ヤヲ決スルニ必要ナル
事項ヲ取調フルヲ以テ限度トス

公判ニ於テ取調ヘ難シト思料ス可キ事項及ヒ被告人ノ辯護準備ノ爲メ必要ナ
リト思料ス可キ事項ニ付キ亦其取調ヲ爲ス可シ

第二百三十二條 檢事口頭ヲ以テ豫審ノ請求ヲ爲シタルトキハ豫審判事ハ調書

ヲ作り其請求及ヒ必要ナル事項ヲ記載シ裁判所書記ト共ニ之ニ署名捺印ス可
シ

第二百三十三條 豫審判事疾病其他ノ事由ニ因リ公判ニ於テ重テ呼出シ難シ
ト思料ス可キ證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ檢事及ヒ辯護人ハ其訊問ニ立會フ
コトヲ得

第二百三十四條 規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十四條 豫審判事ハ呼出ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事由アリテ
呼出ニ應スル能ハサルコトヲ説明シタルトキハ其所在ニ就キ之ヲ訊問スルコ
トヲ得

勾引セラル可キ被告人ニ付キ同一ノ事由アル場合亦同シ

第二百三十五條 豫審判事豫審ヲ爲スニ因リ被告人ニ公訴ヲ受ケサル犯罪アル
コトヲ發見シタルトキハ檢事ノ請求ヲ待タス急要ナル處分ヲ爲スコトヲ得公
訴ヲ受ケサル共犯アルコトヲ發見シタル場合亦同シ
前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其旨ヲ檢事ニ通知ス可シ

第二百三十六條

前條ノ場合ニ於テ檢事公訴ヲ提起ス可キモノト思料シタルトキハ速ニ豫審ヲ求ムル手續ヲ爲ス可シ若シ公訴ヲ提起ス可キモノニ非スト思料シタルトキハ速ニ其旨ヲ豫審判事ニ通知ス可シ
豫審判事檢事ヨリ公訴ヲ提起セサル旨ノ通知ヲ受ケタルトキ又ハ前條第二項ノ通知ヲ爲シタル時ヨリ四十八時間内ニ豫審ノ請求ヲキトキハ其處分ヲ繼續ス可カラス若シ被告人ヲ勾留シタルトキハ之ヲ釋放シ差押又ハ領置シタル物件アルトキハ之ヲ還付ス可シ

第二百三十七條

豫審判事第五條ノ規定ニ依リ被告事件ノ移付ヲ爲スヲ相當ト思料シタルトキハ意見書ヲ添附シテ書類及ヒ證據物件ヲ檢事ニ交付ス可シ
第十二條ノ規定ニ依リ檢事ヨリ被告事件囑託ノ請求アリタルトキ亦同シ
前二項ノ場合ニ於テハ檢事ハ書類及ヒ證據物件ニ意見書ヲ添附シ裁判所ノ決定ヲ請求ス可シ

第二百三十八條

豫審判事ハ公務所ニ照會シ豫審ヲ爲スニ付キ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第二百三十九條

檢事ハ豫審中何時ニテモ必要トスル處分ヲ豫審判事ニ請求スルコトヲ得
又何時ニテモ豫審書類ヲ閱覽スルコトヲ得但豫審手續ノ進行ヲ妨クルコトヲ得ス

第二百四十條

被告人ハ其費用ヲ以テ陳述書ノ謄本ヲ求ムルコトヲ得

第二百四十一條

豫審判事ハ被告事件ニ付キ他ニ取調ヲ要スルコトナシト思料シタルトキハ書類及ヒ證據物件ヲ檢事ニ交付ス可シ

第二百四十二條

左ニ記載シタル場合ニ於テ豫審判事書類及ヒ證據物件ヲ檢事ニ交付スルトキハ其意見書ヲ添附ス可シ

- 一 被告事件其地方裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキ
- 二 被告事件罪ト爲ラサルトキ
- 三 確定裁判ヲ經タルトキ
- 四 大赦ヲ經タルトキ
- 五 公訴ノ時効完成シタルトキ

- 六 法律ニ於テ其刑ヲ全免スルトキ
- 七 告訴又ハ請求ヲ待テ受理ス可キ事件ニ付キ告訴又ハ請求ナキトキ又ハ其取消アリタルトキ
- 八 公訴ノ提起ヲク又ハ公訴ノ提起其規定ニ違ヒタルトキ
- 九 公訴ノ取消アリタルトキ
- 十 審理中ノ事件又ハ裁判確定セサル事件ニ付キ更ニ公訴アリタルトキ
- 十一 被告人帝國ノ裁判權ニ服セザルトキ
- 十二 被告人通常裁判所ノ裁判權ニ服セザルトキ
- 十三 被告人死亡シタルトキ
- 第二百四十三條 檢事ハ豫審判事ノ取調十分ナラスト思料シタルトキハ其事項ヲ指示シテ取調ヲ請求スルコトヲ得
- 豫審判事檢事ノ請求ニ應シタルトキハ更ニ其取調ニ關スル書類及ヒ證據物件ヲ檢事ニ交付ス可シ若シ其請求ニ應セザルトキハ速ニ其旨ヲ通知ス可シ
- 第二百四十四條 豫審判事意見書ヲ送致シタル事件ニ付テハ檢事ハ書類及ヒ證據物件ニ意見書ヲ添附シ先決ノ決定ヲ裁判所ニ請求ス可シ

豫審判事書類及ヒ證據物件ヲ交付シタル後檢事公訴ヲ取消ス場合亦同シ
 檢事公訴ヲ取消スニ因リ先決ノ決定ヲ請求スル場合ニ於テハ意見書ヲ添附スルコトヲ要セス

- 第二百四十五條 裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其部員ニ命シ更ニ被告事件ノ取調ヲ爲サシムコトヲ得
- 第二百四十六條 裁判所ハ左ノ區別ニ從ヒ先決ノ決定ヲ爲ス可シ
 - 一 第二百四十二條第一號ニ記載シタル場合ニ於テハ管轄違ノ言渡
 - 二 第二百四十二條第二號乃至第六號ニ記載シタル場合ニ於テハ免訴ノ言渡
 - 三 第二百四十二條第七號乃至第十三號ニ記載シタル場合ニ於テハ公訴棄却ノ言渡
 - 四 前三號ニ記載シタル言渡ヲ爲ス可キモノニ非サル場合ニ於テハ其事件ヲ檢事ニ交付スル言渡

第二百四十七條 前條第四號ノ決定ヲ爲ス事件ニ付キ必要ナル場合ニ於テハ裁判所ハ決定前其部員ニ命シ第二百三十一條ニ記載シタル事項ニ付キ取調ヲ爲サシム可シ

第二百四十八條 第二百四十五條及ヒ前條ノ取調ニ付テハ豫審ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百四十九條 先決ノ決定アリタル後檢事公訴ヲ取消ス場合ニ於テハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ公訴棄却ノ決定ヲ爲ス可シ

豫審ヲ經サル事件ニ付キ公訴ヲ取消ス場合亦同シ

第二百五十條 管轄違、免訴又ハ公訴棄却ノ言渡ヲ爲シタル事件ニ付キ被告人勾留ヲ受ケタルトキハ當然放免ノ言渡アリタルモノトス但管轄違又ハ公訴棄却ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テ被告人ノ勾留ヲ要スルモノト思料シタルトキハ前ニ發シタル勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發シ其事件ヲ檢事ニ交付スルコトヲ得勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發シタル事件ニ付キ決定確定ノ日又ハ決定確定ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二日內ニ公訴ヲ提起セス又ハ其事件ヲ管轄裁判所ノ檢

事若クハ其他ノ相當官吏ニ送致セサルトキハ檢事ハ被告人ヲ釋放ス可シ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事二日內ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

第二百五十一條 管轄違免訴又ハ公訴棄却ノ言渡ヲ爲シタル事件ニ付キ差押又ハ領置シタル物件アルトキハ當然差押又ハ領置ヲ解ク言渡アリタルモノトス但差出人ニ非サル者ニ還付ス可キ物件ニ付テハ還付ノ言渡ヲ爲ス可シ前條第一項但書ノ場合ニ於テ差押又ハ領置ヲ要スルモノト思料シタルトキハ其差押又ハ領置ヲ存スルコトヲ得同條第二項ノ場合ニ於テハ檢事ハ差押又ハ領置ヲ解ク可シ

第二百五十二條 先決ノ決定ニ對スル抗告ノ提起期間ハ決定ノ告知アリタル日ヨリ三日トス

決定ニ對スル抗告ノ提起期間内及ヒ抗告アリタルトキハ決定ノ執行ヲ停止ス
第二百五十三條 豫審ヲ求メタル事件ニ付テハ第二百四十六條第一號乃至第三號及ヒ第二百四十九條ノ決定アリタル場合ヲ除ク外檢事ハ公判ヲ求ムル手續ヲ爲ス可シ

第二百五十四條 第二百四十二條第二號乃至第六號又ハ同條第九號乃至第十三號ニ記載シタル事由ニ因リ免訴又ハ公訴棄却ノ言渡ヲ受ケ其言渡確定シタル被告人ニ對シ新ナル證據又ハ事實ヲ發見シタルトキハ檢事ハ何時ニテモ其地方裁判所ニ再訴ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求ヲ爲スニハ書類及ヒ證據物件ヲ送致ス可シ

第二百五十五條 裁判所ハ請求ヲ理由アリトスルトキハ被告事件ヲ豫審又ハ公判ニ付スル決定ヲ爲ス可シ此決定アリタルトキハ當然公訴ノ提起アリタルモノトス

請求ヲ理由ナシトスルトキハ棄却ノ決定ヲ爲ス可シ此決定ニ對スル抗告ノ提起期間ハ決定ノ告知アリタル日ヨリ三日トス

第二百五十六條 前條ノ決定ヲ爲シタルトキハ其送達ト共ニ書類及ヒ證據物件ヲ檢事ニ送致ス可シ

第二百五十七條 第二百四十二條第七號又ハ第八號ニ記載シタル事由ニ因リ公訴棄却ノ言渡ヲ受ケタル被告人ニ對シテハ檢事ハ何時ニテモ更ニ公訴ヲ提起スルコトヲ得

第三章 公判

第二百五十八條 公判ヲ爲スニハ定數ノ判事引續キ出廷スル外檢事及ヒ裁判所書記ノ出廷ヲ要ス

判決ノ宣告ヲ爲ス場合ニ於テハ同一ノ判事出廷スルコトヲ要セス

第二百五十九條 被告人出廷セサルトキハ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外公判ノ手續ヲ爲スコトヲ得ス

第二百六十條 被告人ハ公判廷ニ於テ身體ノ拘束ヲ受クルコトヲ得シ但看守者ヲ置クコトヲ得

第二百六十一條 被告事件無期刑又ハ死刑ニ該ル可キモノナルトキハ辯護人ヲクシテ公判ヲ開クコトヲ得ス但判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ被告人自ラ辯護人ヲ選任セス又ハ其選任シタル辯護人出廷セサルトキハ裁判長職權ヲ以テ辯護人ヲ附ス可シ

第二百六十二條 左ノ場合ニ於テ被告人自カラ辯護人ヲ選任セス又ハ其選任シ

タル辯護人出廷セサルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ附スルコトヲ得

六八

- 一 被告人二十歳未満ナルトキ
- 二 被告人婦女ナルトキ
- 三 被告人聾者又ハ啞者ナルトキ
- 四 被告人ニ精神障礙ノ疑アルトキ
- 五 被告事件ノ模様ニ因リ裁判所ニ於テ辯護人ヲ必要トスルトキ

第二百六十三條 前二條ノ辯護人ハ裁判所所在地ニ在ル辯護士又ハ司法官試補中ヨリ裁判長之ヲ選任ス可シ

被告人ノ利害相反セサルトキハ一人ノ辯護人ヲシテ被告人數人ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百六十四條 證據ト爲ス書類ハ裁判長之ヲ朗讀シ又ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ朗讀セシム可シ但當事者異議ナキトキハ其書類ノ要旨ヲ告知シテ朗讀ニ代フルコトヲ得

第二百六十五條 證人ハ公判前裁判所又ハ判事其他法律ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル者又ハ條約ニ依リ訴訟上ノ共助ヲ爲ス外國ノ官廳若クハ官吏又ハ檢事、司法警察官ノ訊問シタル者ト雖モ更ニ之ヲ訊問ス可シ但特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス

第二百六十六條 公判前裁判所又ハ判事其他法律ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル者又ハ條約ニ依リ訴訟上ノ共助ヲ爲ス外國ノ官廳若クハ官吏又ハ檢事、司法警察官、被告人共同被告人又ハ證人ニ對シテ爲シタル訊問ニ付テノ調書ハ左ニ記載シタル場合ニ限り之ヲ朗讀スルコトヲ得

- 一 證人又ハ共同被告人死亡、疾病又ハ所在ノ遠隔若クハ不分明其他重大ナル事由ニ因リ呼出シ難キトキ
- 二 被告人又ハ證人公判ニ於テ公判前ノ訊問ニ對シテ爲シタル陳述ノ重要ナル部分ヲ變更シタルトキ
- 三 被告人又ハ證人公判ニ於テ陳述ヲ拒ミタルトキ
- 四 證人ニ對スル公判前ノ訊問調書ヲ朗讀スルコトニ付キ當事者異議ナキ

第二百六十七條 區裁判所ニ於テハ前條ニ記載シタル以外ノ場合ト雖モ公判ニ於テ更ニ證人ヲ訊問スルコトヲ必要トセサルトキハ公判前裁判所又ハ判事其他法律ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル者又ハ條約ニ依リ訴訟上ノ共助ヲ爲ス外國ノ官廳若シハ官吏又ハ檢事司法警察官ノ證人ニ對シテ爲シタル訊問ニ付テハ調書ヲ朗讀スルコトヲ得

第二百六十八條 前二條ノ規定ニ依リテ爲シタル調書ノ朗讀ハ訊問ト同一ノ效力ヲ有ス

調書ノ朗讀ニ付テハ第二百六十四條ノ規定ヲ準用ス
第二百六十九條 被告人ノ訊問及ヒ證據調ハ裁判長之ヲ爲ス可シ

陪席判事及ヒ檢事ハ裁判長ニ告ク被告人證人及ヒ鑑定人ヲ訊問スルコトヲ得被告人ハ必要ナリトスル事項ニ付キ證人鑑定人及ヒ共同被告人ヲ訊問ス可キコトヲ裁判長ニ請求スルコトヲ得

第二百七十條 公判ノ期日及ヒ其變更ハ裁判長之ヲ定ム但當事者ノ請求ニ因ル

期日變更ハ裁判所之ヲ決定ス

第二百七十一條 公判ノ期日ニハ辯護人輔佐人其他訴訟ニ關係アル者ヲ呼出ス可シ

辯護人輔佐人ノ呼出ニ付テハ第四十條及ヒ第五十四條ノ規定ヲ準用ス

第二百七十二條 地方裁判所ニ於テハ第一回ノ公判期日ニ限り被告人ニ對スル

呼出狀ノ送達ト其期日トノ間少クトモ三日ノ猶豫ヲ存ス可シ

被告人異議ナキトキハ前項ノ猶豫期間内ト雖モ公判ヲ開始スルコトヲ得

第二百七十三條 裁判長被告人ニ對シ第八十七條ノ訊問ヲ爲シタル後檢事ハ被告事件ニ付キ陳述ヲ爲ス可シ

辯論ハ前項ノ陳述ニ依リテ開始ス

第二百七十四條 裁判長ハ被告事件ニ付キ被告人ヲ訊問シ其訊問ヲ終リタル後

證據調ヲ爲ス可シ

證據物件ハ之ヲ被告人ニ示ス可シ

第二百七十五條 裁判長ハ各個ノ證據ニ付キ取調ヲ終リタル毎ニ被告人ニ意見

アルヤ否ヤヲ問フ可シ

又被告人ニ對シ其利益ト爲ル可キ證據ヲ差出スコトヲ得ヘキ旨ヲ告知ス可シ

第二百七十六條 證人喚問檢證鑑定其他ノ取調ニ付キ當事者ノ請求アリタルト

キハ裁判所ハ先ツ許否ノ決定ヲ爲ス可シ

第二百七十七條 被告人疾病ニ罹リ出廷スルコト能ハサルトキハ裁判所ハ其出

廷スルコトヲ得ルニ至ルマテ公判ヲ延期ス可シ

第二百七十八條 辯論開始後被告人ノ精神障礙ニ因リ辯論ヲ停止シタル事件ニ

付テハ裁判所ハ新ニ公判ノ手續ヲ爲ス可シ其他ノ事由ニ因リ引續キ七日以上

辯論ヲ停止シタル事件ニ付テハ新ニ公判ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第二百七十九條 被告事件ニ付キ第二百四十二條第一號乃至第八號及ヒ第十號

乃至第十三號ニ記載シタル事由アルトキハ當事者ハ終局ノ判決アルマテ何時

ニテモ先決判決ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二百八十條 裁判所ハ先決判決ノ請求ヲ理由アリトスルトキハ第二百八十六

條第三號乃至第五號ノ區別ニ從ヒ判決ヲ爲スコシ

請求ヲ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却ス可シ

前項ノ判決ハ上訴ニ關シテハ之ヲ終局判決ト看做ス

第二百八十一條 裁判所ハ何時ニテモ職權ヲ以テ前條第一項ノ判決ヲ爲スコト

ヲ得

第二百八十二條 裁判長ハ證人鑑定人又ハ共同被告人被告人ノ面前ニ於テ十分

ナル陳述ヲ爲スコトヲ得サル可シト思科シタルトキハ其陳述中被告人ヲ退廷

セシムルコトヲ得但證人鑑定人又ハ共同被告人陳述ヲ終リタル後被告人ヲ入

廷セシメ其陳述ノ要領ヲ告知ス可シ

第二百八十三條 裁判長ノ處分ニ付キ當事者異議ノ申立ヲ爲シタルトキハ裁判

所ハ其中立ニ付キ決定ヲ爲スコシ

第二百八十四條 證據調終リタル後檢事ハ事實及ヒ法律ニ付キ意見ヲ陳述ス可

シ

被告人ハ答辯ヲ爲スコトヲ得

檢事及ヒ被告人ハ更ニ意見ヲ陳述スルコトヲ得但辯論ノ最終ニハ被告人ヲシ

テ陳述セシム可シ

七四

第二百八十五條 裁判所ハ辯論終結ノ後ト雖モ必要ナル場合ニ於テハ辯論ヲ再開スルコトヲ得

第二百八十六條 裁判所ハ左ノ區別ニ從ヒ判決ヲ以テ言渡ヲ爲ス可シ

一 犯罪ノ證明アリタルトキハ刑ノ言渡

二 犯罪ノ證明ナキトキ及ヒ第二百四十二條第二號ノ場合ニ於テハ無罪ノ言渡

三 第二百四十二條第三號乃至第六號ノ場合ニ於テハ免訴ノ言渡

四 第二百四十二條第七號第八號及ヒ第十號乃至第十三號ノ場合ニ於テハ公訴棄却ノ言渡

五 第二百四十二條第一號ノ場合ニ於テハ管轄違ノ言渡

第二百八十七條 辯論終結ノ後ハ被告人出廷セスト雖モ判決ヲ宣告ス可シ

第二百八十八條 被告人出廷スルモ陳述ヲ肯セス又ハ秩序維持ノ爲メ裁判長ヨリ退廷ヲ命セラレタルトキハ被告人ノ辯論ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第二百八十九條 罰金又ハ輕罪ノ刑ニ該ル可キ被告事件ニ付キ呼出テ受ケタル被告人出廷セザルトキハ被告人ノ辯論ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第二百九十條 無罪免訴公訴棄却管轄違又ハ罰金科料ノ言渡ヲ爲シタル事件ニ付キ被告人勾留ヲ受ケタルトキハ當然放免ノ言渡アリタルモノトス但公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テ被告人ノ勾留ヲ要スルモノト思料シタルトキハ裁判所ハ前ニ發シタル勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發シ其事件ヲ檢事ニ交付スル言渡ヲ爲スコトヲ得

勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發シタル事件ニ付キ其交付ヲ受ケタル日ヨリ三日内ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所檢事ニ事件ヲ送致セザルトキハ檢事ハ當然被告人ヲ釋放ス可シ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事三日内ニ公訴ヲ提起セザルトキ亦同シ

第二百九十一條 被告人刑ノ言渡ヲ受ケタルト否トニ拘ハラヌ差押又ハ領置シタル物件ニシテ沒收ノ言渡ナキモノハ當然差押又ハ領置ヲ解ク言渡アリタルモノトス

前條第一項但書ノ場合ニ於テ差押又ハ領置ヲ要スルモノト思料シタルトキハ其差押又ハ領置ヲ存スル言渡ヲ爲スコトヲ得同條第二項ノ場合ニ於テハ檢事ハ其差押又ハ領置ヲ解ク可シ

第二百九十二條 犯罪行為ニ因リ得タル物件ニシテ被告人ヨリ差押又ハ領置シタルモノハ被害者ニ還付ス可キ理由明瞭ナルトキニ限り被害者ノ請求ヲシト雖モ還付ノ言渡ヲ爲ス可シ
假ニ還付シタル物件ニ付キ別段ノ言渡ヲキトキハ當然還付ノ言渡アリタルモノトス

前二項ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス

第二百九十三條 判決ノ宣告ハ辯論終結ノ日ヨリ七日内ニ之ヲ爲ス可シ

第二百九十四條 刑ノ言渡ヲ受ケタル被告人ニ對シテハ裁判所ハ職權ヲ以テ訴訟費用ノ負擔ニ付キ言渡ヲ爲ス可シ

第二百九十五條 裁判長ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル被告人ニ對シ上訴ヲ爲スヲ得ヘ

キコト及ヒ其期間ヲ告知ス可シ但第二百八十七條乃至第二百八十九條ノ場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲シタルトキハ被告人ニ送達スル判決書ニ其旨ヲ記載ス可シ

第三編 上訴

第一章 總則

第二百九十六條 上訴ハ當事者之ヲ爲スコトヲ得

檢事ハ被告人ノ利益ノ爲メニモ上訴ヲ爲スコトヲ得

第二百九十七條 上訴ノ提起期間ハ裁判告知ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二百九十八條 上訴提起權ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得

第二百九十九條 上訴ハ其裁判アルマテ何時ニテモ之ヲ取下クルコトヲ得

第三百條 上訴提起權ノ拋棄及ヒ上訴ノ取下ハ書面ヲ以テ之ヲ爲ス可シ但公廷ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ其中立ヲ調書ニ記載ス可シ

第三百一條 上訴提起權ヲ拋棄シ又ハ上訴ヲ取下ケタル者ハ更ニ上訴ヲ爲スコ

トヲ得ス

七八

第三百二條 上訴ノ對手人ハ上訴提起權ノ喪失後其裁判アルマテ何時ニテモ附帶上訴ヲ爲スコトヲ得

第三百三條 主タル上訴ヲ取下ケタルトキ又ハ主タル上訴ノ手續其規定ニ違ヒタリトシテ棄却セラレタルトキハ附帶上訴ハ其效力ヲ失フ

第三百四條 天災其他避ク可カラサル事故ノ爲メ上訴ノ提起期間内ニ上訴ヲ爲スコト能ハサリシ者ハ原裁判所ニ上訴提起權回復ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三百五條 上訴提起權回復ノ請求ハ障礙ノ止ミタル日ヨリ通常ノ上訴ノ提起期間内ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スコシ

上訴提起權回復ノ原因タル事實ハ之ヲ説明スコシ

第三百六條 上訴提起權回復ノ請求ヲ爲ス者ハ其請求ト同時ニ前ニ爲スコト能ハサリシ上訴手續ヲ追行スコシ

第三百七條 原裁判所ハ上訴提起權回復ノ請求ヲ許スコキヤ否ヤヲ決定スコシ前項ノ決定ニ對スル抗告ノ提起期間ハ決定ノ告知アリタル日ヨリ三日トス

第三百八條 上訴提起權回復ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ其決定アルマテ裁判ノ執行ヲ停止スル決定ヲ爲スコトヲ得

第三百九條 監獄ニ在ル被告人上訴ヲ爲スニハ監獄署長ヲ經由シテ其中立書ヲ差出スコトヲ得此場合ニ於テ被告人上訴ノ提起期間内ニ書面ヲ監獄署長ニ差出シタルトキハ申立ノ效力ヲ生ス

前項ノ場合ニ於テ被告人自ラ書面ヲ作ルコト能ハサルトキハ監獄署長ハ其屬員ヲシテ被告人ノ陳述ヲ筆記セシム可シ

監獄署長ハ原裁判所ニ申立書ヲ送致シ且之ヲ受取リタル日時ヲ通知スコシ

第三百十條 前條ノ規定ハ被告人上訴提起權ノ拋棄、上訴ノ取下及ヒ上訴提起權回復ノ請求ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用シ同條第一項ノ規定ハ上告趣意書及ヒ其答辯書ヲ差出ス場合ニ之ヲ準用ス

第三百十一條 上訴ノ申立、上訴提起權ノ拋棄、上訴ノ取下又ハ上訴提起權回復ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ速ニ之ヲ對手人ニ通知スコシ

第二章 控訴

第三百十二條 控訴ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ第一審ニ於テ爲シタル終局判決ニ對シ之ヲ爲スコトヲ得

第三百十三條 控訴ノ提起期間ハ七日トス

第三百十四條 控訴ハ判決ノ一部ニ限り之ヲ爲スコトヲ得若シ其部分ヲ限ラサルトキハ判決ノ全部ニ對シ控訴アリタルモノトス

判決ノ一部ニ限り控訴ヲ爲シタル場合ト雖モ他ノ部分ニ關係アルトキハ其部分ニ付キ亦控訴アリタルモノトス

第三百十五條 控訴ヲ爲スニハ其中立書ヲ第一審裁判所ニ差出ス可シ

第三百十六條 控訴提起權喪失後ニ爲シタル控訴ノ中立ハ第一審裁判所決定ヲ以テ之ヲ棄却ス可シ

前項ノ決定ニ對スル抗告ノ提起期間ハ決定ノ告知アリタル日ヨリ三日トス

第三百十七條 前條ノ場合ヲ除ク外第一審裁判所ハ書類及ヒ證據物件ヲ其裁判所ノ檢事ニ送致シ檢事ハ之ヲ控訴裁判所ノ檢事ニ送致ス可シ
控訴裁判所ノ檢事ハ書類及ヒ證據物件ヲ其裁判所ニ送致ス可シ

被告人勾留中ナルトキハ第一裁判所ノ檢事ハ之ヲ控訴裁判所所在地ノ監獄ニ移ス可シ

第三百十八條 前條ノ手續ヲ爲シタル後附帶控訴ヲ爲スニハ其中立書ヲ控訴裁判所ニ差出ス可シ但公廷ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三百十九條 裁判長ハ被告人ニ對シ第八十七條ノ訊問ヲ爲シタル後控訴中立人ヲシテ控訴ノ趣意ヲ陳述セシム可シ

第三百二十條 控訴裁判所ハ原判決ニ付キ控訴アリタル部分ニ付テノミ取調ヲ爲ス可シ

第三百二十一條 第一審公判ニ於テ訊問シタル證人ニシテ更ニ之ヲ訊問スルコトヲ必要トセサルトキハ其訊問ニ付テノ調書ヲ朗讀スルコトヲ得

前項ノ規定ハ第二百六十六條ノ準用ヲ妨ケス

第三百二十二條 控訴裁判所ハ控訴ノ手續其規定ニ違ヒ又ハ控訴ヲ理由ナキモノト認ムルトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却ス可シ

第三百二十三條 控訴裁判所控訴ヲ理由アリトスルトキハ原判決ニ付キ控訴ア

リタル部分ヲ取消シ更ニ判決ヲ爲ス可シ但第一審裁判所不當ニ管轄違ヲ認メ又ハ公訴ヲ棄却シタルニ因リ判決ヲ取消シタル場合ニ於テハ其事件ヲ原裁判所ニ差戻スコトヲ得

第三百二十四條 第一審裁判所先決判決ヲ以テ不當ニ管轄ヲ認メ又ハ公訴ヲ受理シタル事件ニ付テハ控訴裁判所ハ止テ原判決ヲ取消ス可シ

第三百二十五條 被告人又ハ輔佐人ノ控訴ニ付キ被告人出廷セサルトキハ判決ヲ以テ控訴ヲ棄却ス可シ

檢事ノ控訴ニ付キ被告人出廷セサルトキハ其辯論ヲ聽カスシテ判決ヲ爲ス可シ

第三百二十六條 控訴ノ審判ニ付テハ本章ニ規定シタルモノヲ除ク外第二編第三章ノ規定ヲ準用ス

第三章 上告

第三百二十七條 上告ハ地方裁判所又ハ控訴院ノ第二審ニ於テ爲シタル終局判決ニ對シ之ヲ爲スコトヲ得

第三百二十八條 上告ハ判決ノ違法ナルコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第三百二十九條 判決ハ左ノ場合ニ於テハ常ニ違法ナリトス

- 一 判事、檢事、裁判所書記ノ出廷ナクシテ審判ヲ爲シタルトキ
- 二 法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル判事審判ニ干與シタルトキ
- 三 判事偏頗ノ恐アリトシテ忌避セラレ其忌避ノ申立理由アリト認めラレタルニ拘ハラス審判ニ干與シタルトキ
- 四 土地管轄ヲ除ク外裁判所不當ニ其管轄又ハ管轄違ヲ認メタルトキ
- 五 裁判所不當ニ公訴ヲ受理シ又ハ之ヲ棄却シタルトキ
- 六 法律ニ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外被告人ノ出廷ナクシテ審判ヲ爲シタルトキ
- 七 法律ニ依リ辯護人ヲ要スル事件ニ付キ其出廷ナクシテ審判ヲ爲シタルトキ
- 八 裁判所請求ヲ受ケタル事項ニ付キ判決ヲ爲サス又ハ請求ヲ受ケサル事

項ニ付キ判決ヲ爲シタルトキ

八四

九 審判ノ公開ニ關スル規定ニ違ヒタルトキ

十 判決ニ理由ヲ附セス又ハ其理由齟齬アルトキ

第三百三十條 前條ノ場合ヲ除ク外訴訟手續法律ニ違ヒタルコトアリト雖モ判

決ニ影響ヲ及ボササルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

第三百三十一條 上告ノ提起期間ハ五日トス

第三百三十二條 上告ヲ爲スニハ其申立書ヲ第二審裁判所ニ差出シ且其中立ヲ爲シタル日ヨリ十日内ニ趣意書ヲ差出ス可シ

上告趣意書ニハ原判決ニ對スル不服ノ事項及ヒ其理由ヲ表示ス可シ

被告人ノ上告趣意書ハ辯護人又ハ被告人ノ委任ヲ受ケタル辯護士ノ署名シタルモノニ非サレハ之ヲ差出スコトヲ得ス

第三百三十三條 第二審裁判所ハ上告趣意書ヲ受取りタル時ヨリ二十四時間内ニ之ヲ對手人ニ送達ス可シ

第三百三十四條 上告ノ對手人ハ上告趣意書ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ五日内ニ

答辯書ヲ差出スコトヲ得

第三百三十五條 上告趣意書又ハ其答辯書ハ上告裁判所ニ送致スルモノノ外對手人ノ數ニ應シ之ヲ差出ス可シ

第三百三十六條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ第二審裁判所決定ヲ以テ上告申立ヲ棄却ス可シ

一 上告提起權喪失後ニ上告申立ヲ爲シタルトキ

二 期間内ニ趣意書ヲ差出ササルトキ

前項ノ決定ニ對スル抗告ノ提起期間ハ決定ノ告知アリタル日ヨリ三日トス

第三百三十七條 前條ノ場合ヲ除ク外第二審裁判所ハ書類ヲ其裁判所ノ檢事ニ

送致シ檢事ハ之ヲ上告裁判所ノ檢事ニ送致ス可シ

上告裁判所ノ檢事ハ書類ヲ其裁判所ニ送致ス可シ

第三百三十八條 被告人又ハ輔佐人辯論ヲ爲スニハ辯護人ヲ差出ス可シ

第三百三十九條 上告申立人ハ上告裁判所ニ於テ最初ニ定メタル公判期日ノ五

日前マテハ上告ノ趣旨ヲ擴張ス可キ書面ヲ上告裁判所ニ差出スコトヲ得

上告ノ對手人ハ前項ノ期限前ニ限リ附帶上告ヲ爲スコトヲ得

第三百四十條 裁判長ハ上告及ヒ答辯ノ趣意其他必要ナル事項ヲ調査スル爲メ受命判事ヲ定ム可シ

受命判事ハ其調査シタル事項ニ付キ報告書ヲ作ル可シ

第三百四十一條 上告裁判所ハ遅クトモ第一回ノ公判期日ヨリ五日前ニ其期日ヲ檢事ニ通知ス可シ

辯護人ニ對スル呼出狀ノ送達ト第一回ノ公判期日トノ間ニハ少クトモ五日ノ猶豫ヲ存ス可シ

第三百四十二條 開廷ノ日ニハ受命判事先ツ其調査シタル事項ニ付キ報告ヲ爲ス可シ

檢事ノ爲シタル上告ニ付テハ檢事其趣意ヲ辯明シ且其意見ヲ陳述シタル後辯護人答辯ヲ爲ス可シ

被告人又ハ輔佐人ノ爲シタル上告ニ付テハ辯護人其趣意ヲ辯明シタル後檢事其意見ヲ陳述ス可シ

第三百四十三條 法律上辯護人ヲ要セサル事件ニ付キ辯護人ヲ差出ササルトキ

ハ上告裁判所ハ檢事ノ陳述ノミヲ聽キ判決ヲ爲ス可シ

第三百四十四條 上告裁判所ハ原判決ニ付キ上告アリタル部分及ヒ之ニ關係アル部分ニ限リ調査ヲ爲ス可シ但土地管轄ヲ除ク外裁判所ノ管轄及ヒ公訴受理ノ當否ニ付テハ其職權ヲ以テ調査ヲ爲スコトヲ得

第三百四十五條 上告裁判所ハ前條但書ノ調査ヲ爲スニ付キ必要ナルトキハ其取調ヲ部員ニ命シ又ハ之ヲ他ノ裁判所ニ囑託スルコトヲ得

第三百四十六條 上告裁判所上告ノ手續其規定ニ違ヒ又ハ上告ヲ理由ナキモノト認ムルトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却ス可シ

第三百四十七條 上告裁判所上告ヲ理由アリトスルトキハ判決ヲ以テ原判決ノ上告アリタル部分及ヒ之ニ關係アル部分ヲ破毀ス可シ

第三百四十四條但書ニ依リ調査シタル事項ニ付テハ其職權ヲ以テ原判決ヲ破毀スルコトヲ得

第三百四十八條 上告裁判所左ノ理由ニ因リ原判決ヲ破毀スル場合ニ於テ被告

事件ノ事實原判決ニ依リ定マリタルトキ又ハ第三百四條但書ノ調査ニ依リ事實明瞭ナルトキハ其事件ニ付キ自ラ決テ爲スコシ

一 判決ヲ爲スニ付キ法律ヲ適用セス又ハ其適用ヲ誤アリタルトキ

二 免訴又ハ公訴棄却ノ言渡ヲ爲スコキ事件ヲ受理シタルトキ

第三百四十九條 不當ニ管轄違テ認メ又ハ公訴ヲ棄却シタルニ因リ原判決ヲ破毀スルトキハ其事件ヲ原裁判所ニ差戻スコシ但上告裁判所必要ト認ムルトキハ直ニ其事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ得

第三百五十條 不當ニ管轄ヲ認メタルニ因リ原判決ヲ破毀スル場合ニ於テ其事件上告裁判所ノ管内ニ在ル控訴裁判所ノ管轄ニ屬ス可キモノナルトキハ其事件ヲ管轄控訴裁判所ニ移付スコシ但上告裁判所必要ト認ムルトキハ直ニ其事件ヲ第一審ノ管轄裁判所ニ移付スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其事件上告裁判所ノ管内ニ在ル控訴裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ止テ原判決ヲ破毀スコシ

第三百五十一條 前三條ニ記載シタル以外ノ理由ニ因リ原判決ヲ破毀スルトキ

ハ其事件ヲ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移付スコシ

第三百五十二條 判決確定後其事件ノ審判違法ナルコトヲ發見シタルトキハ檢事總長ハ何時ニテモ大審院ニ非常上告ヲ爲スコトヲ得

第三百五十三條 非常上告ヲ爲スニハ其理由ヲ記載シタル申立書ヲ差出スコシ

第三百五十四條 大審院非常上告ノ申立ヲ受ケタルトキハ檢事ノ陳述ノミヲ聽キ左ノ區別ニ從ヒ判決ヲ爲スコシ

一 原判決違法ナルトキハ其違法ナル部分ヲ破毀ス但原判決ニ於テ言渡シタル刑被告人ノ爲メ不利益ナルトキハ之ヲ破毀シタル上相當ノ判決ヲ爲ス

二 原裁判ノ訴訟手續法律ニ違ヒタルトキハ止テ其手續ヲ破毀ス

三 非常上告ノ理由ナキトキハ之ヲ棄却ス

第三百五十五條 非常上告ノ判決ハ前條第一號但書ニ依リ爲シタルモノヲ除外其效力ヲ被告人ニ及ボサス

第三百五十六條 上告ノ審判ニ付テハ本章ニ規定シタルモノヲ除ク外其審判ニ

相當ナル限度ニ於テ第二編第三章ノ規定ヲ準用ス

九〇

第四章 抗告

第三百五十七條 抗告ハ裁判所ノ爲シタル決定ニ對シ之ヲ爲スコトヲ得但特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス

證人鑑定人通事其他當事者ニ非サル者訴訟事件ノ關係ニ因リ決定ヲ受ケタルトキハ之ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百五十八條 左ニ記載シタル決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 裁判所裁判管轄又ハ訴訟手續ニ關シ判決前ニ爲シタル決定但忌避ノ請求ヲ棄却スル決定勾留保釋差押ニ關スル決定第二百四十六條第二百四十九條ノ決定及ヒ當事者ニ非サル者ニ對スル決定ヲ除ク
- 二 第二百五十五條第一項ノ決定
- 三 上告裁判所ノ爲シタル決定
- 四 第三百七十一條ノ決定
- 五 再審開始ノ決定

第三百五十九條 抗告ハ特ニ其期間ヲ定メタル場合ヲ除ク外何時ニテモ之ヲ爲

スコトヲ得但原裁判ヲ廢棄スルモ其實益ナキニ至リタルトキハ此限ニ在ラス

第三百六十條 抗告ハ直近上級ノ裁判所ニ之ヲ爲スコシ

抗告ヲ爲スニハ其中立書ヲ原裁判ヲ爲シタル裁判所ニ差出スコシ

裁判所抗告ヲ理由アリトスルトキハ原裁判ヲ更正スコシ抗告ノ全部又ハ一部ヲ理由ナシトスルトキハ中立書ヲ受取タル日ヨリ三日内ニ意見書ヲ附シ其中立書ヲ抗告裁判所ニ送致スコシ

第三百六十一條 抗告ノ申立アルモ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外裁判ノ執行ヲ停止セス但裁判所ハ決定ヲ以テ抗告ノ裁判アルマテ其執行ノ停止ヲ命スルコトヲ得

抗告裁判所亦決定ヲ以テ裁判執行ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第三百六十二條 抗告アリタルニ因リ裁判ノ執行ヲ停止シタル事件ニ付キ原裁判所相當ト認ムルトキハ書類及ヒ證據物件ヲ抗告裁判所ニ送致スコシ

抗告裁判所ハ必要ナル場合ニ於テハ書類及ヒ證據物件ノ送致ヲ求ムルコトヲ

得

九二

第三百六十三條 抗告裁判所ハ抗告ノ手續其規定ニ違ヒ又ハ抗告ヲ理由ナキモノト認ムルトキハ決定ヲ以テ之ヲ棄却ス可シ

第三百六十四條 抗告裁判所抗告ヲ理由アリトスルトキハ原裁判ヲ廢棄スル決定ヲ爲シ必要ナル場合ニ於テハ更ニ裁判ヲ爲ス可シ

第三百六十五條 抗告裁判所ノ裁判ハ抗告當事者ニ送達スルト同時ニ之ヲ原裁判所ニ通知ス可シ

第三百六十六條 抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ左ニ記載シタル場合ニ限り裁判ノ告知アリタル日ヨリ三日内ニ更ニ直近上級ノ裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得但地方裁判所ニ抗告シタル事件ニ付テハ控訴院ニ抗告スルヲ以テ最終トス

一 第二百四十六條ノ決定ニ對スル抗告ナルトキ

二 上訴棄却ノ決定又ハ上訴提起權回復ノ請求ニ付テノ決定ニ對スル抗告ナルトキ

三 再審ノ請求ヲ棄却シタル決定ニ對スル抗告ナルトキ

四 第四百二十九條ノ決定ニ對スル抗告ナルトキ

五 刑ノ執行ノ異議ニ付テノ決定ニ對スル抗告ナルトキ

六 當事者ニ非サル者ノ爲シタル抗告ナルトキ

第三百六十七條 豫審判事受命判事又ハ受託判事ノ爲シタル決定ニ不服ナル者ハ判事所屬ノ裁判所ニ決定ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得但受託判事區裁判所判事ナル場合ニ於テハ管轄地方裁判所ニ其請求ヲ爲ス可シ

豫審判事受命判事又ハ受託判事ノ爲シタル決定證人鑑定人又ハ通事ニ對スル過料ノ言渡ナル場合ニ於テハ前項ノ請求ニ付キ第三百三十條第二項第三項及ヒ第四百十四條ノ規定ヲ準用ス

第三百六十八條 檢事ノ爲シタル勾留若クハ差押又ハ司法警察官ノ爲シタル差押ノ處分ニ不服ナル者ハ被告事件ノ管轄裁判所ニ其處分ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得但司法警察官ノ爲シタル處分ニ付テハ被告事件未タ裁判所ニ繫屬セサル場合ニ限り司法警察官ノ職務執行地ヲ管轄スル區裁判所ニ其請求ヲ爲スコトヲ得

第三百六十九條 第三百六十七條第二項ノ場合ヲ除ク外決定又ハ處分ノ取消若クハ變更ノ請求アルモ其執行ヲ停止セス

第三百六十一條及ヒ第三百六十二條ノ規定ハ決定又ハ處分ノ取消若クハ變更ノ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百七十條 第三百六十九條及ヒ第三百六十八條ノ請求ヲ爲スニハ請求書ヲ管轄裁判所ニ差出ス可シ

第三百七十一條 裁判所ハ請求ノ手續其規定ニ違ヒ又ハ請求ヲ理由ナキモノト認ムルトキハ決定ヲ以テ之ヲ棄却ス可シ決定又ハ處分ヲ取消シ若クハ變更スルモ其實益ナシト認ムルトキ亦同シ
請求ヲ理由アリト認ムルトキハ決定ヲ以テ原決定又ハ處分ヲ取消シ必要ナル場合ニ於テハ更ニ決定ヲ爲ス可シ

第四編 再審

第三百七十二條 再審ノ請求ハ判決確定ノ後左ニ記載シタル場合ニ限り受刑者ノ利益ノ爲メ之ヲ爲スコトヲ待

一 判決ノ證據ト爲リタル證據確定判決ニ因リ偽造又ハ變造ナリシコト證明セラレタルトキ

二 判決ノ證據ト爲リタル證言鑑定又ハ通譯確定判決ニ因リ偽證又ハ虛偽ノ鑑定若クハ通譯ナリシコト證明セラレタルトキ

三 受刑者ヲ誣告シタル罪ヲ犯シ確定判決ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アルトキ但受刑者誣告ノ爲メ處刑セラレタルトキニ限ル

四 被告事件ノ裁判ニ干與シタル判事其事件ニ付キ職務ニ關スル罪ヲ犯シ確定判決ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタルトキ

五 判決ノ證據ト爲リタル通常裁判所又ハ特別裁判所ノ裁判確定裁判ニ因リ變更若クハ廢棄セラレタルトキ

六 受刑者ニ對シ無罪免訴又ハ公訴棄却ヲ言渡ス可キ明確ナル證據又ハ原判決ニ於テ言渡シタル刑ヨリ輕キ刑ヲ言渡ス可キ明確ナル證據ヲ新ニ發見シ其證據ニ因リ直接ニ原判決ノ不當ナルコトヲ認メ得ヘキトキ

第三百七十三條 前條第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ公訴ヲ提起シ又ハ之ヲ續

行スルコト能ハサル理由アル爲メ確定判決ヲ得難キトキハ他ノ方法ヲ以テ事實ヲ證明シ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得但犯罪ノ證據ナキ爲メ公訴ヲ提起シ又ハ之ヲ續行スルコト能ハサル場合ハ此限ニ在ラス

第三百七十四條 第三百七十二條第一號第二號第四號ノ場合及ヒ無罪、免訴、公訴棄却ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ相當ノ刑ヨリ輕キ刑ノ言渡ヲ受ケタル者裁判所又ハ裁判所外ニ於テ犯罪事實ヲ自白シタル場合ニ於テハ被告人ノ不利益ノ爲メニモ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三百七十五條 再審ノ請求ハ再審ノ理由アリトスル判決ヲ爲シタル裁判所之ヲ管轄ス

控訴アリタル事件ハ控訴ニ係ラサル事項ニ付キ再審ノ請求ヲ爲ス場合ト雖モ控訴裁判所其請求ヲ管轄ス

上告ニ依リ確定判決ト爲リタル事件ニ付テハ上告裁判所ノ判事第三百七十二條第四號ニ記載シタル事由アルコトヲ申立ツル場合ヲ除ク外第二審ノ判決ヲ爲シタル裁判所之ヲ管轄ス

第三百七十六條 第三百七十二條ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキ者左ノ如シ

一 管轄裁判所ノ檢事

二 受刑者

三 受刑者ノ法定代理人

四 受刑者死亡シタル場合ニ於テハ其親族

第三百七十四條ノ請求ハ管轄裁判所ノ檢事ノミ之ヲ爲スコトヲ得

第三百七十七條 再審ノ請求ハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除アリタル後ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得

第三百七十八條 第二百九十九條第三百條及ヒ第三百九條ノ規定ハ再審ノ請求ニ之ヲ準用ス

第三百七十九條 再審ノ請求アルモ死刑ヲ除ク外刑ノ執行ヲ停止セス

第三百八十條 再審ノ請求ヲ爲サントスル者ハ其趣意書ニ原判決ノ謄本及ヒ證據ヲ添ヘ之ヲ管轄裁判所ニ差出ス可シ

第三百三十二條第三項ノ規定ハ第三百七十六條第二號乃至第四號ニ記載シタ

ル者ノ差出ス再審請求ノ趣意書ニ之ヲ準用ス
第三百八十一條 裁判所ハ必要ナル場合ニ於テハ其部員ニ命シ取調ヲ爲シ報告
ヲ爲サシム可シ

第三百八十二條 裁判所再審請求ノ手續其規定ニ違ヒ又ハ請求ヲ理由ナキモノ
ト認ムルトキハ決定ヲ以テ之ヲ棄却ス可シ
前項ノ決定ニ對スル抗告ノ提起期間ハ決定ノ告知アリタル日ヨリ三日トス

第三百八十三條 裁判所ハ再審ノ請求ヲ理由アリトスルトキハ其事件ニ付キ再
審開始ノ決定ヲ爲ス可シ

第三百八十四條 裁判所再審開始ノ決定ヲ爲シタル事件ニ付テハ更ニ取調ヲ爲
シ判決ヲ以テ原判決ヲ維持シ又ハ原判決ヲ取消シテ更ニ判決ヲ爲ス可シ
死亡者ノ爲メ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付テハ原判決ヲ維持シ又ハ止タ原
判決ヲ取消ス可シ

受刑者ノ利益ノ爲メ再審ノ請求ヲ爲シタル後受刑者死亡シタルトキ亦前項ニ
同シ

受刑者ノ不利益ノ爲メ爲シタル再審ノ請求ニ付キ未タ再審ノ判決ヲ爲ササル
前受刑者死亡シタルトキハ再審ノ請求及ヒ其請求ニ付キ爲シタル裁判ハ當然
其效力ヲ失フ

第三百八十五條 受刑者ノ利益ノ爲メ爲シタル再審ノ判決ニ於テハ如何ナル場
合ト雖モ原判決ニ於テ言渡シタル刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

第三百八十六條 受刑者ノ利益ノ爲メ爲シタル再審ノ判決ニ因リ無罪ノ言渡ア
リタルトキ又ハ死亡者ノ爲メ原判決ヲ取消ス言渡アリタルトキハ官報ヲ以テ
其判決ヲ公示ス可シ

第五編 特別訴訟手續

第一章 大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟ノ手續

第三百八十七條 裁判所構成法第五十條第二號ニ記載シタル大審院ノ特別權限
ニ屬スル犯罪ニ付テハ檢事總長其捜査ヲ爲ス可シ

控訴院、地方裁判所、區裁判所ノ檢事及ヒ司法警察官亦前項ノ犯罪ニ付キ捜査ヲ
爲シ檢事總長ニ報告ス可シ

第三百八十八條 檢事又ハ司法警察官強制ノ處分ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ前條ノ犯罪ニ付キ亦其處分ヲ爲スコトヲ得但區裁判所檢事司法警察官ハ其事件ヲ地方裁判所檢事ニ送致ス可シ

第三百八十九條 檢事總長捜査ヲ終リタル後其事件大審院ノ特別權限ニ屬シ且公訴ヲ提起ス可キモノト思料シタルトキハ豫審ヲ爲ス可キ判事ヲ命スルコトヲ大審院長ニ請求ス可シ

第三百九十條 大審院長ヨリ地方裁判所ノ判事ニ豫審ヲ爲ス可キコトヲ命シタルトキハ檢事總長ハ豫審中他ノ檢事ヲシテ其職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第三百九十一條 豫審ヲ命セラレタル判事取調ヲ終リタルトキハ書類及ヒ證據物件ヲ大審院ニ差出ス可シ

第三百九十二條 大審院豫審ノ取調ヲ十分ナリトスルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ左ノ區別ニ從ヒ決定ヲ爲ス可シ

- 一 被告事件公判ニ付ス可キモノト認メタルトキハ公判ヲ開始ス
- 二 被告事件地方裁判所又ハ區裁判所ノ權限ニ屬スルモノト認メタルトキ

ハ其事件ヲ管轄裁判所ニ移付ス

三 犯罪ノ證明ナキトキ又ハ第二百四十二條第二號乃至第六號ニ記載シタル事由アルモノト認メタルトキハ免訴ス

四 第二百四十二條第七號乃至第九號及ヒ第十一號乃至第十三號ニ記載シタル事由アルモノト認メタルトキハ公訴ヲ棄却ス

第三百九十三條 公判ニ於テハ被告事件地方裁判所又ハ區裁判所ノ權限ニ屬スルモノト認メタル場合ト雖モ其事件ニ付キ判決ヲ爲ス可シ

前項ノ規定ニ依リ爲シタル判決ハ之ヲ終審トス

第三百九十四條 本章ニ規定シタルモノヲ除ク外公訴豫審及ヒ公判ニ付テハ第二編ノ規定ヲ準用ス

第二章 監置及ヒ懲治ニ關スル手續

第三百九十五條 監置及ヒ懲治ヲ命ス可キ裁判所ノ管轄及ヒ手續ニ付テハ刑事訴訟ニ關スル規定ヲ準用ス

第三百九十六條 裁判所公訴事件ニ付キ無罪ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テ監置又ハ

懲治ヲ必要ナリトスルトキハ職權ヲ以テ其處分ヲ命ス可シ

第三百九十七條 裁判所監置又ハ懲治ノ請求ヲ受ケタル事件ニ付キ更ニ公訴ノ提起アリタルトキハ其提起前ニ爲シタル取調ハ公訴ニ付キ爲シタル取調ト同一ノ效力ヲ有ス

第三百九十八條 第三百九十六條ノ規定ニ依リ監置又ハ懲治ノ處分ヲ受ケタル者ニ付テハ公訴事件ノ判決確定ニ至ルマテ處分ノ執行ヲ停止ス

第三百九十九條 監置又ハ懲治ノ處分ヲ受ケタル者ニ對シ刑ノ言渡確定シタルトキハ其處分ハ當然效力ヲ失フ

第六編 裁判ノ執行

第四百條 裁判ハ確定シタル後之ヲ執行ス可シ但特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス

第四百一條 裁判ノ執行ハ其裁判ヲ爲シタル裁判所ノ檢事之ヲ指揮ス

上訴ノ裁判又ハ上訴ノ取下ニ因リ下級裁判所ノ裁判ヲ執行ス可キ場合ニ於テハ上訴裁判所ノ檢事其執行ヲ指揮ス

前二項ノ場合ニ於テ執行ヲ受ク可キ被告人其事件ニ付キ前審ヲ爲シタル裁判所所在地ニ在ルトキハ其裁判所ノ檢事前項ノ執行ヲ指揮ス

第四百二條 裁判執行ノ指揮ハ書面ヲ以テ之ヲ爲シ裁判所書記ノ作りタル裁判書ノ謄本又ハ抄本ヲ添附ス可シ

第四百三條 監獄内ニ於テ執行ス可キ二個以上ノ主刑ノ執行ハ其重キモノヲ先ニス

懲役ト禁錮トノ執行ハ其刑期ノ長短ニ拘ハラズ懲役ヲ先ニス

公權剝奪アルモノト公權剝奪ナキモノトハ死刑ヲ除ク外前二項ノ規定ニ拘ララス公權剝奪アルモノノ執行ヲ先ニス

第四百四條 死刑ノ執行ハ司法大臣ノ命令ニ依ル

死刑ノ言渡確定シタルトキハ其執行ヲ指揮ス可キ檢事ヨリ速ニ書類ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

第四百五條 司法大臣ヨリ死刑ヲ執行ス可キ旨ノ命令アリタルトキハ三日内ニ其執行ヲ爲ス可シ

第四百六條 死刑ノ執行ハ檢事、裁判所書記及ヒ監獄署長ノ立會ニテ之ヲ爲ス可シ

檢事又ハ監獄署長ノ許可ヲ得タル者ノ外死刑執行ノ場所ニ入ルコトヲ得ス

第四百七條 死刑ノ執行ニ立會ヒタル裁判所書記ハ執行始末書ヲ作り立會ヲ爲シタル檢事及ヒ監獄署長ト共ニ之ニ署名捺印ス可シ

第四百八條 死刑ノ言渡ヲ受ケタル者精神障礙ニ罹リタルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ其障礙ノ繼續スル間死刑ノ執行ヲ停止ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懐胎ナルトキハ分娩ニ至ルマテ其執行ヲ停止ス

前項ノ規定ニ依リ死刑ノ執行ヲ停止シタル者ニ付テハ分娩後別段司法大臣ノ命令アルニ非サレハ其執行ヲ爲スコトヲ得ス

第四百九條 懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者精神障礙ニ罹リタルトキハ檢事ノ指揮ニ因リ其障礙ノ繼續スル間刑ノ執行ヲ停止ス

第四百十條 前二條ノ規定ニ依リ刑ノ執行ヲ停止スル場合ニ於テハ檢事ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ病院其他適當ト思料スル場所ニ入置クヲ命スルコトヲ得

又看護義務者若クハ之ニ代ル可キ者ニ受刑者ヲ引渡シ其看護ヲ爲サシムルコトヲ得

第四百十一條 第四百九條ノ場合ヲ除ク外懲役、禁錮若クハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者疾病ニ罹リ刑ノ執行ニ因リ生命ヲ保ツコト能ハサル恐アルトキ又ハ執行ニ因リ處刑ノ目的外ナル重大ノ不利益ヲ生ス可キトキハ檢事ハ本人又ハ法定代理人ノ請求ニ因リ相當ノ期間ヲ定メ何時ニテモ執行ノ停止ヲ許可スルコトヲ得

第四百十二條 檢事ハ刑ノ執行停止ヲ許可シタル期間内ト雖モ必要ナル場合ニ於テハ其許可ヲ取消スコトヲ得

第四百十三條 檢事ハ刑ノ執行停止ヲ許可スルニ付テハ請求人ヲシテ保證ヲ立テシムルコトヲ得

前項ノ處分ニ付テハ第七十一條及ヒ第七十二條ノ規定ヲ準用ス

第四百十四條 刑ノ執行停止ノ許可ヲ得タル者逃走シタルトキ又ハ執行停止ニ付キ檢事ノ發シタル命令ニ違背シタルトキハ檢事ハ保證金ノ全部又ハ一部ノ

没取ヲ命スルコトヲ得

第四百十五條 刑ノ執行猶豫ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ之ヲ言渡ス可シ

第四百十六條 刑ノ執行猶豫ノ取消ハ刑ノ執行ヲ指揮ス可キ檢事ノ請求ニ因リ其檢事所屬ノ裁判所之ヲ決定ス可シ

第四百十七條 監獄内ニ於テ執行ス可キ刑ノ言渡ヲ受ケタル者拘禁ヲ受ケヌ又ハ保釋中ナルトキハ檢事ハ執行ノ爲メ之ヲ呼出ス可シ
呼出ニ應セサルトキハ逮捕狀ヲ發ス可シ

第四百十八條 監獄内ニ於テ執行ス可キ刑ノ言渡ヲ受ケタル者逃走シタルトキ又ハ逃走ノ虞アルトキハ檢事ハ直ニ逮捕狀ヲ發スルコトヲ得

第四百十九條 檢事刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ檢事長ニ人相書ヲ送致シ其逮捕ヲ請求スルコトヲ得
請求ヲ受ケタル檢事長ハ其管轄地内ノ檢事ヲシテ逮捕狀ヲ發シ逮捕ノ手續ヲ爲サシム可シ

第四百二十條 逮捕狀ニハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ氏名、住居、年齢、刑名、刑期、其他

逮捕ニ必要ナル事項ヲ記載シ檢事裁判所書記ト共ニ之ニ署名捺印ス可シ

又必要ナルトキハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ人相書ヲ添附ス可シ

第四百二十一條 逮捕狀ノ執行ニ付テハ勾引狀ノ執行ニ關スル規定ヲ準用ス

第四百二十二條 逮捕狀ハ勾引狀ト同一ノ效力ヲ有ス

第四百二十三條 罰金、科料、過料、沒收、沒取、追徴及ヒ訴訟費用ノ言渡ハ檢事ノ命令ニ因リ之ヲ執行ス

前項ノ執行ニ付テハ民事ノ裁判執行ニ關スル規定ヲ準用ス但檢事ノ命令ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

第四百二十四條 破壊又ハ廢棄ス可キ沒收物品ハ檢事之ヲ處分ス可シ

第四百二十五條 偽造又ハ變造ノ文書ニ付キ沒収ノ言渡アリタル場合ニ於テ被害者其他ノ者ノ請求アルトキハ其偽造又ハ變造ニ係ル部分ヲ表示シテ之ヲ交付スルコトヲ得

第四百二十六條 差押又ハ領置シタル物件ノ還付ヲ受ク可キ者ノ所在不明ナル

爲メ又ハ其他ノ事由ニ因リ其物件ヲ還付スルコト能ハサル場合ニ於テハ檢事ハ其旨ヲ公告ス可シ

公告ヲ爲シタル日ヨリ一年内ニ還付ノ請求ナキトキハ其物件ハ國庫ニ歸屬ス
前項ノ期間内ト雖モ保管ニ不便ナル物件ハ之ヲ公賣シテ其代價ヲ保管スルコトヲ得

第四百二十七條 大赦ニ因リ裁判ノ效力消滅シタル場合ニ於テ拘禁セラレタル犯人アルトキハ檢事ハ速ニ其拘禁ヲ解ク可シ

裁判ノ效力消滅シタル場合ト雖モ裁判ノ執行ニ因リ既ニ爲シタル處分ノ回復ヲ求ムルコトヲ得ス

第四百二十八條 檢事ハ必要ナル場合ニ於テハ管内下級裁判所ノ檢事ニ命令シテ刑ノ執行ニ關スル處分ヲ爲サシメ又ハ其處分ヲ他ノ裁判所ノ檢事ニ囑託スルコトヲ得

第四百二十九條 刑法第六十四條又ハ第七十條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ム可キ場合ニ於テハ其犯罪事實ニ付キ最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢事其裁判所ニ請

求ヲ爲ス可シ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人ノ意見ヲ聽キ其決定ヲ爲ス可シ
前項ノ決定ニ對スル抗告ノ提起期間ハ決定ノ告知アリタル日ヨリ三日トス

抗告ノ提起期間内及ヒ抗告アリタルトキハ決定ノ執行ヲ停止ス

第四百三十條 被告事件ニ付キ言渡サレタル刑過料追徴其他ノ負擔ニ關シ疑アルトキハ當事者ハ其言渡ヲ爲シタル裁判所ニ疑義ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第四百三十一條 刑ノ執行ヲ受クル者其執行ノ指揮ヲ不當トスルトキハ其指揮ヲ爲シタル檢事所屬ノ裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第四百三十二條 疑義又ハ異議ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

第三百九條ノ規定ハ前項ノ申立ニ之ヲ準用ス

第四百三十三條 疑義又ハ異議ノ申立ヲ受ケタル裁判所ハ其中立ニ付キ決定ヲ爲ス可シ

前項ノ決定ニ對スル抗告ノ提起期間ハ決定ノ告知アリタル日ヨリ三日トス
第四百三十四條 監置、懲治ノ執行ニ付テハ刑ノ執行ニ關スル規定ヲ準用ス

罰金科科ヲ完納セサル爲メ留置ヲ爲ス可キ場合亦同シ

第七編 私 訴

第一章 總 則

第四百三十五條 犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ其損害ヲ回復スル爲メ公訴ニ附帶シ公訴ノ被告人又ハ其他ノ者ニ對シテ私訴ヲ提起スルコトヲ得

第四百三十六條 公訴ニ付キ第一審ノ判決アリタル後ハ私訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第四百三十七條 第五條第十二條第十六條第十八條及ヒ第三百九十二條ノ規定ニ依リ公訴事件ノ移付囑託又ハ管轄移轉ノ裁判アリタルトキハ私訴ニ付キ亦同一ノ裁判アリタルモノト看做ス

第四百三十八條 當事者ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ親族又ハ雇人ヲシテ訴訟ノ代理又ハ輔佐ヲ爲サシムルコトヲ得但上告ノ場合ハ此限ニ在ラス

第四百三十九條 前條ノ規定ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ訴訟ノ代理又ハ輔佐ヲ爲サシムルコトヲ妨ケス

第四百四十條 私訴ノ終局判決ハ公訴ノ終局判決ニ先チテ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百四十一條 左ノ事項ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ之ヲ私訴ニ準用ス但民事訴訟法ニ於テ即時抗告ヲ許シタル場合ノ抗告ノ提起期間ハ決定ノ告知アリタル日ヨリ三日トス

- 一 訴訟能力
- 二 共同訴訟人
- 三 第三者ノ訴訟參加
- 四 訴訟費用
- 五 保證
- 六 訴訟上ノ救助
- 七 訴訟手續ノ中斷及ヒ中止
- 八 當事者本人ノ出頭
- 九 訴訟中ノ和解
- 十 自白

十一 請求ノ拋棄又ハ認諾ニ基キ爲ス可キ判決

十二 訴及ヒ上訴ノ取下

十三 裁判書ニ記載ス可キ事項

十四 強制執行

第四百四十二條 私訴ノ再審ノ訴ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ民事部ニ之ヲ爲ス可シ

第四百四十三條 私訴ニ付テハ本編ニ規定シタルモノノ外裁判所ノ審級ニ從ヒ刑事訴訟ニ關スル規定ヲ準用ス

第二章 訴訟手續

第四百四十四條 私訴ヲ提起セントスル者ハ民事訴訟法ノ規定ニ準シ訴狀ヲ管轄裁判所ニ差出ス可シ

第四百四十五條 訴狀其他對手人ニ交付スルコトヲ必要トスル書類ハ裁判所ニ差出スモノノ外對手人ノ數ニ應シ之ヲ差出ス可シ

第四百四十六條 裁判所訴狀ヲ受取リタルトキハ速ニ之ヲ被告人ニ送達ス可シ

但公判前之ヲ送達スル暇ナカリントキハ公延ニ於テ之ヲ交付スルコトヲ得

第四百四十七條 裁判所ハ公訴事件ノ公判期日ニ原告人其他私訴ニ關係アル者ヲ呼出ス可シ

第四百四十八條 原告人公判期日ニ出頭シ其期日前訴狀ヲ差出スコト能ハサリシ事由ヲ説明シタルトキハ裁判所ハ私訴ノ口頭提起ヲ許ス可シ但被告人タル可キ者出頭セサル場合ハ此限ニ在ラス

第四百四十九條 裁判所ハ公訴事件ノ辯論ヲ終リタル後私訴ニ付キ取調ヲ爲シ辯論ヲ爲サシム可シ但裁判所長ハ公訴事件ノ取調又ハ辯論中ト雖モ職權ヲ以テ私訴ニ付キ取調ヲ爲シ又ハ辯論ヲ爲サシムルコトヲ得

第四百五十條 原告人ハ被害ノ事實ヲ證明シ其請求ノ目的ヲ陳述ス可シ被告人ハ答辯ヲ爲ス可シ

第四百五十一條 裁判所ハ相當ノ陳述ヲ爲スコト能ハサル當事者訴訟代理人又ハ輔佐人ニ對シ決定ヲ以テ其後ノ陳述ヲ禁スルコトヲ得此場合ニ於テハ新期日ヲ定メ辯護士ヲシテ訴訟代理ヲ爲サシム可キコトヲ命ス可シ

第四百五十二條 證據調ハ當事者ノ請求ニ因テノミ之ヲ爲ス可シ但檢證及ヒ鑑定ハ此限ニ在ラス

當事者ハ公訴ニ付キ取調ヘタル證據ヲ援用スルコトヲ得此場合ニ於テハ其證據ハ私訴ニ付キ取調ヲ爲シタルモノト看做ス

第四百五十三條 檢事ハ私訴ノ審判ニ立會フコトヲ要セス
檢事私訴ノ審判ニ立會ヒタル場合ニ於テハ當事者辯論ヲ終リタル後意見ヲ陳述スルコトヲ得

第四百五十四條 裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス其事件繁雜ニシテ公訴ノ判決ヲ遅延セシムル恐アリト認ムルトキ又ハ公訴ノ審判結了後私訴ノ審判ニ付キ數多ノ日子ヲ要スルモノト認ムルトキハ決定ヲ以テ私訴ヲ其裁判所ノ民事部ニ移送スルコトヲ得

第四百五十五條 裁判所ハ公訴ノ判決ト同時ニ私訴ノ判決ヲ爲ス可シ
私訴ニ付キ取調未タ十分ナラサルトキハ公訴ノ判決ヲ爲シタル後其判決ヲ爲スコトヲ得

第四百五十六條 公訴ニ付キ無罪免訴又ハ公訴棄却ノ言渡ヲ爲シタルトキハ決定ヲ以テ私訴ヲ其裁判所ノ民事部ニ移送ス可シ

第四百五十七條 第四百五十四條及ヒ前條ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四百五十八條 呼出テ受ケタル原告人其期日ニ出頭セサルトキハ闕席判決ヲ以テ請求ヲ棄却ス可シ但私訴ニ付キ取調ヲ爲ス前ニ出頭シ其取調及ヒ辯論ニ差支ナカリシトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ第四百四十條及ヒ第四百五十六條ノ適用ヲ妨ケス

第四百五十九條 被告人公判期日ニ出頭セサルトキハ裁判所ハ被告人ニ於テ原告人ノ陳述シタル事實ヲ自白シタルモノト看做シ原告人ノ請求理由アルヤ否ヤヲ取調ヘ判決ヲ爲ス可シ

前條第一項但書及ヒ第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百六十條 原告人又ハ被告人出頭スルモ辯論ヲ爲ササルトキ又ハ秩序維持ノ爲メ裁判長ヨリ退廷ヲ命セラレタルトキハ出頭セザリシモノト看做ス

第四百六十一條 闕席判決ヲ以テ敗訴ノ言渡ヲ受ケタル原告人又ハ被告人ハ判決ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ三日内ニ故障ヲ申立ツルコトヲ得

前項ノ故障ニ付テハ民事訴訟法中故障ニ關スル規定ヲ準用ス

第四百六十二條 私訴ニ付キ區裁判所又ハ地方裁判所ノ第一審ニ於テ爲シタル終局判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得

第四百六十三條 闕席判決ヲ受ケタル者ハ其判決ニ對シ控訴ヲ爲スコトヲ得ス但闕席判決ヲ受ケタル者民事訴訟法ノ規定ニ依リ控訴ヲ爲スコトヲ得ル場合ハ此限ニ在ラス

闕席判決ヲ受ケタル者ノ對手人ハ故障ノ提起期間經過スルニ至ルマテハ控訴ヲ提起スルコトヲ付ス故障アリタル事件ニ付キ其完結ニ至ルマテ亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ故障ノ提起期間ノ終リタル日又ハ故障ノ完結シタル日ヨリ控訴ノ提起期間ヲ起算ス

第四百六十四條 前條第二項ノ規定ニ違ヒタリトノ理由ヲ以テ控訴ヲ棄却セラレタル者ハ其規定ニ從ヒ更ニ控訴ヲ爲スコトヲ妨ケス

第四百六十五條 控訴裁判所私訴ノミニ付キ控訴ヲ受ケタル時ハ決定ヲ以テ其事件ヲ其裁判所ノ民事部ニ移送ス可シ公訴ノ控訴ノ取下アリタルトキ亦同シ前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四百六十六條 控訴ノ申立書ニハ原判決ニ對スル不服ノ事項及ヒ其理由ヲ表示ス可シ

第四百六十七條 裁判所控訴ノ申立書ヲ受取リタルトキハ速ニ之ヲ對手人ニ送達ス可シ

第四百六十八條 控訴ノ申立第四百六十三條ノ規定ニ違ヒタルトキハ第一審裁判所決定ヲ以テ控訴ヲ棄却ス可シ

第四百六十九條 被控訴人公判期日ニ出頭セサルトキハ裁判所ハ第一審裁判ノ證據ト爲リタルモノニ牴觸セサル控訴人ノ事實上ノ陳述ハ被控訴人之ヲ自白シタルモノト看做シ且第一審裁判所ノ事實上ノ確定ヲ補充シ若クハ辯駁スル爲メ控訴人ノ申立テタル適法ノ證據調ハ既ニ之ヲ爲シ及ヒ其結果ヲ得タルモノト看做シ闕席判決ヲ爲ス可シ

第四百五十八條第一項但書及ヒ第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百七十條 第四百四十五條、第四百四十七條、第四百四十九條、第四百五十一條

乃至第四百五十七條及ヒ第四百五十九條乃至第四百六十一條ノ規定ハ私訴ノ
控訴ニ之ヲ準用ス

第四百七十一條 私訴ニ付キ地方裁判所及ヒ控訴院ノ第二審ニ於テ爲シタル終

局判決ニ對シテハ上告ヲ爲スコトヲ得

第四百七十二條 上告ノ當事者辯論ヲ爲スニハ訴訟代理人トシテ辯護士ヲ差出
ス可シ

第四百七十三條 當事者訴訟代理人ヲ差出ササルトキハ上告裁判所ハ其儘ニテ
審判ヲ爲ス可シ

第四百七十四條 第四百四十五條、第四百四十七條、第四百四十九條、第四百五十三
條乃至第四百五十六條、第四百六十三條乃至第四百六十五條及ヒ第四百六十八
條ノ規定ハ私訴ノ上告ニ之ヲ準用ス

改正刑事訴訟法草案(終)

